

わが子のあゆみ

2019.1
No.456

初春号
第70巻4号

1

【にこにこ班活動】

本校では、1年生から6年生までの児童を『にこにこ班』というグループに分け、年間異学年で遊ぶ活動をしています。

毎回、6年生のリーダーが下級生の希望を聞きながら計画を立て、遊びを進めています。

11月には、近くの公園まで出かけてグループごとに遊ぶ『にこにこハイキング』を行っています。こうした活動を通して、6年生はリーダーとしての力を身に付けられるようにがんばっています。



せき し りつ あさひ が おか しょう がっ こう
関市立旭ヶ丘小学校



各務原市立各務小学校

【かかみはらしりつかかみしょうがっこう】

- 住所 〒509-0104 各務原市各務おがせ町4丁目7
- TEL 058-384-0124
- 児童数 215名



朝のあいさつ風景



名人の表彰



沿革

本校は、明治6年に「三省義校」として創立されて以来現在まで、140年以上の歴史を歩んできました。学校とともに地域の歴史も古く、須恵器を製造していた窯跡や壬申の乱で活躍した村国男依をまつる村国神社など古代から人々が住んできた遺跡が数多く残っています。子どもたちも地域との結びつきが強く、各地区の氏神様の祭礼はもちろんのこと、子ども歌舞伎を演じたり、屋形船に乗って笛や太鼓を演奏したりと各地域独自の行事にも参加しています。各務原市の北部に位置し、学校区が南北に長く、遠方の子どもたちは約1時間かけて登校してきます。

学校の教育目標

よく考え 助け合って つくり出し やりぬく子

学校のたからもの① 「たからもの」と「名人」でいっぱい

全校や各学級で協力して取り組み成果をあげたことを「たからもの」、個人で取り組み成果をあげたことを「名人」としてみんなで認め合います。「たからもの」では、四月九日の入学式で新一年生の世話がとても上手にできた六年生に、今年度第一号の「たからもの」認定をしました。そのことを皮切りに、「ユネスコ協会から書き損じはがき集めに対する感謝状をもらえたこと（全校）や「学級会」一人ひとりがめあてや学級目標を意識した発言をしたり、聞きあつたりできたこと（四年一組）など現在十七個の「たからもの」ができています。また「名人」では、授業中や集会などで上手に話が聞ける「聞き名人」、丁寧で見やすいノートづくりができる「ノート名人」などとともに、都道府県がすらすら言える「都道府県名人」や毎日元気なあいさつができる「あいさつ名人」など学習や生活に関連して努力している子を認めています。十一月一日現在二〇九名の名人が誕生しています。これからもたくさん「たからもの」や「名人」を生み出していきたいです。

学校のたからもの② 元気なあいさつを交わす「あいさつボランティア」

児童会の今年度のスローガンは「笑顔いっぱい各務小」です。その中で児童会運営委員会



郷土芸能クラブ発表

鯉みこし集会



鯉みこしパレード (昨年度の様子)



学校のたからもの③ 地域とともに

は「笑顔いっぱいにするため、特に進んであいさつできる各務小」をめざそうと「あいさつボランティア」に取り組んでいます。これは、運営委員の子が自ら毎朝校門前に立ってあいさつをするともに、登校した子から校門前に立つてもらい「あいさつ」をしようというものです。同じような取り組みを昨年度から始めているので、「あいさつボランティア」が定着し、現在では呼びかけをしなくても登校した子から自然に並んであいさつを交わっています。子どもたちはその場所を「あいさつロード」と呼んでいます。毎朝「おはようございます」という元気な声が響きます。六年生のある子は「あいさつロードであいさつを交わすと晴れ晴れしい気分になり、今日も勉強がんばろうと思えます。」と語ってくれました。各務小の素敵な伝統としてこれからも大切にしたい取り組みです。

らものを話し合う中で考え、制作していきます。一学期の終わりに「鯉みこし集会」を開き、学級ごとのデザインやそこに込めた願いを交流します。「鯉みこしパレード」当日は、午後学校をスタートし、三十分ほどかけて町内を練り歩きおがせ池に到着します。到着後、各学級のみこしを紹介し、その後本校の「郷土芸能クラブ」が笛と太鼓の演奏を披露することも恒例となっており、地域の方々にも大変楽しみにしていただいています。ただ、今年度は「熱中症対策」のためパレード自体を中止したので大変残念でしたが、来年度は再びおがせ池のまわりを「鯉みこし」が元気よく動いている姿を皆さんに見てもらいたいと思っています。

坂祝町立坂祝小学校

【さかほぎちょうりつさかほぎしょうがっこう】

- 住所 〒505-0075 加茂郡坂祝町取組35番地2
- TEL 0574-26-7105
- 児童数 435名



沿革

明治40年に坂祝尋常高等小学校として誕生し、110年以上の歴史があります。坂祝町の面積は、岐阜県下で4番目に小さいのですが、加茂郡内では一番多くの児童が学習・生活する学校です。南に流れる木曾川、西にそびえる猿啄城址の城山、火塚古墳や岩屋観音、町の東西を貫く中山道など、自然と史跡、歴史豊かな地域です。



学校の教育目標

気力にあふれた たくましい坂祝の子

学校のたからもの① 「三つの心」と 「10の坂小スタンダード」

坂祝小学校では、三つの心（友だちを大切に
する心」「美しさを大切にする心」「値打ちある
活動を大切にすること」を、大きな柱として位
置付け、毎日の生活や行事に取り組んでいま
す。そして、それらを支えるものが「10の坂小ス
タンダード」です。「ベタピントン」「チャイム席」
「空き教室の美しさ」「名札をつける」「もくび
か掃除」「挨拶」「靴・スリッパ揃え」「放送を静
かに聞く」「廊下右側歩行」「ていねいな言葉」
です。これらは、あたり前のことです。しかし、
あたり前を続けることは容易ではありません。
あたり前を続けることで特別なものにな
ります。児童会執行委員や各委員会で「10の坂
小スタンダード」に関わらせた常時活動や取
組をこれまでずっと繰り返し行ってきました。

学校のたからもの②

「挨拶・姿勢日本」をめざして

私たちの坂祝小学校は、「挨拶」を大切に
しています。朝や帰り、授業の挨拶だけではあり
ません。来校されたお客様、登下校ですれ違
う地域の方にも大きく爽やかな挨拶を交わ
します。その姿は、校外学習で利用する施設
の方からも「素晴らしい」と評価されるほどで
す。そして、もう一つ大切にしていることは「姿
勢」です。10の坂小スタンダードにもある「ペ
タ（両足裏を床につける）ピン（腰骨を立てて

背筋を伸ばす）トン（手は膝や机の上に置く）」
です。いつもベタピントンを意識することはと
ても難しいです。時には姿勢が崩れてしま
うこともあります。そんな時「ピン」と声をか
けると「あっ」と気が付きます。そして、再
び、姿勢を整えます。

学校のたからもの③ 自ら歩むPTA

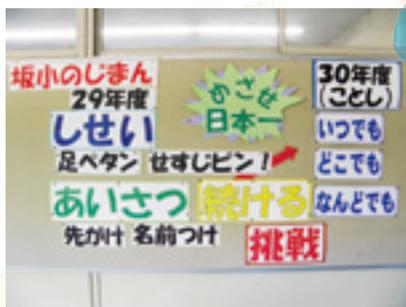
坂祝町は、今年度、町制施行五十周年を迎
えました。そこでPTA本部役員を中心に記
念事業を企画しました。「みんなで歩け歩け大
会（坂祝を歩こう）」です。二つのコースを設定
し、坂祝町に残る史跡をめぐる、小学生やその
保護者に郷土の素晴らしさを再認識してもら
おうという企画です。

事前に役員会のメンバーで実際にコースを
歩きました。危険箇所を確かめ、スタッフの人
数も検討しました。チラシの作成や記念品づ
くりは、LINEを通して役員みんなで校正
を繰り返しました。役員による手作り企画で
す。そして、大会運営にはPTA役員だけでな
く、多くの保護者や学校職員も運営スタッフ
として協力する体制をつくりました。子ども
のため、地域のために自ら考え、歩むPTAは坂
祝小学校の自慢です。

学校のたからもの④ ハイタッチで始まる坂小の朝

毎朝、緑色のベストを着用した見守り隊、P
TA役員が通学班とともに登校してきます。
多くの通学班が通る歩道橋では、児童会執行
委員が通学班を迎えます。「〇〇さん、おはよ
う！」と交わされる挨拶とともに「ハイタッチ」
の音が鳴ります。挨拶は、人と人を繋ぐ魔法の
言葉とも言われます。そこに加わる「ハイタッ
チ」は、子ども達の心と体にさらなる元気を送
り込みます。誰とも自然に交わされるハイ
タッチ挨拶は、坂祝小学校の自慢の一つです。

坂祝小学校の
自慢



「ベタピントン」で
話を聞きます



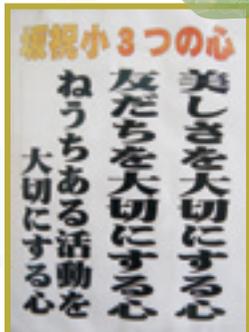
踵をピンッと
整えてある靴箱



「ベタピントン」で
文字を書きます



大切な柱
「3つの心」



PTA自主企画のチラン

見守り隊の
朝の活動



執行委員による
朝のハイタッチ
あいさつ



多治見市立根本小学校

【たじみしりつねもとしょうがっこう】

- 住所 〒507-0078 多治見市高根町4丁目6番地の5
- TEL 0572-27-4646
- 児童生徒数 573名



沿革

昭和49年 校舎建築工事起工式第一期 学区決定
 昭和50年 多治見市根本小学校と命名
 多治見市根本小学校開校

今年で創立44年目を迎えました。校区が広く、児童は3つの中学校区(北陵中・小泉中・南姫中)から通ってきています。地域との結びつきが強く、多くの方に見守られ、子どもたちは日々成長しています。「安心・安全な学校」という願いが、学校・地域・家庭を一体化させていると言っても過言ではありません。周りは多くの木々に囲まれ、自然がいっぱいの中で育てられている子どもたちです。

学校の教育目標

ともにかがやく根本の子

かしこい子・やさしい子・たくましい子

学校のたからもの① 「笑顔で登校・感謝で下校」を合言葉に

根本小学校の学校教育目標は、「ともにかがやく根本の子」(かしこい子・やさしい子・たくましい子)です。この教育目標の具現を目指し、全職員が一丸となって、大切な根本地域の宝である全校児童の健やかな成長の手助けができるように努力しています。職員、児童、保護者、地域が一体となって、協同(心と力を合わせる)ことし、一つになることで、根本の子どもたちを育てています。

笑顔で登校するために…いつでも、どこでも、誰にでも元気で気持ちの良い挨拶ができる根本の子であってほしいと願っています。そのために、児童会を中心として「挨拶運動」の推進、PTAを中心とした「挨拶活動」を年間を通して行っています。挨拶の頭文字をとって、「あかるく」「いつでも」「さきに」「つながりをつくる」ことができるように、子どもたちも先生もいつも元気にさわやかな笑顔あふれる挨拶ができるように心がけています。

感謝で下校するために…今日一日、学校が楽しかった。そして、「明日も頑張ろう」という気持ちで子どもたちを下校させたいと思っています。「授業でこんなことが分かったよ」「友達と一緒にこんなことを頑張ったよ」「こんな会話が家庭で交わされるような授業作りをしています。粘り強く努力し続けていく子どもを育てていきたいと思えます。」

学校のたからもの② 「根本の地域力」

青少年まちづくり市民会議や根本交流センター(公民館)、見守りボランティア、民生児童委員、読み聞かせボランティアの方々など、根本地域は、多くの団体に支えられています。中でも、青少年まちづくりのイベントでは、まちづくり市民会議の方々の指導の下、春には、「みんなで芋苗植え」や「みんなで田植え」と銘打ち、土曜日・日曜日には親子で取り組む行事を企画したり、夏には、地域のお寺の協力を得て「座禅体験会」を行ったり、秋には春に植えたさつまいもやお米の収穫をするというイベント、冬には、子どもリース作りや大人しめ縄作りなどを行っています。お米に関しては、餅米を収穫するというのもあって、秋に行われる「根本ふれあいフェスティバル」で、根本小学校のPTA役員や地域の区長、民生児童委員の方々などの協力を得て餅つき大会も行っています。つきあがったお餅は、あんこ餅やきなこ餅などにして、地域の多くの方に無料で配っています。

また、学校と地域のつながりの一つとして、学校が見守りボランティアの方を招待して、「1年生を迎える会」や「6年生を送る会」で交流を図っています。校区には二つのボランティアがあります。それぞれの登下校の様子について話をいただいたり、気をつけなければならぬこと、見守りボランティア団体をやっていて嬉しかったことなどを話していただいたりしています。児童たちも、こういう方のおかげで安心・安全に登下校できていると感じています。

学校のたからもの③ 「全校で取り組んでいる」「8エイトジャンプ大会」と「持久走大会」

根本小学校では、朝活動の取組の一環として、一年生から六年生まで各学級対抗で8ジャンプ(大縄跳びの八の字)を行っています。各学級を二つのグループに分け、三分間で何回跳ぶことができるのかを競います。本校の歴史記録を更新しようという児童と教師が一体となって頑張っています。8ジャンプ大会の記録は、毎年「チャレンジスポーツinぎふ」に登録しています。五月(六月の時点(前期))では、どの学年も岐阜県内でトップの記録になっています。本校では、8ジャンプの取組は記録を達成するためではなく、仲間関係作りにも役立てています。

また、体力作りのもう一つの取組みとして、持久走があります。これは、朝活動で春と秋に取り組んでいます。後期には取組の締めくくりとして、持久走大会を開催しています。学年別を実施していますが、授業参観と同じくらいの保護者の方が参観に訪れます。児童たちも、保護者の皆さんに頑張っている姿を見せてくれます。

全校が集中して
取り組むくもくも掃除
です

見守り活動をして
下さる地域の
ボランティアの方々



朝活動の取組
【持久走大会】



1年生を
迎える会



青少年まちづくり
市民会議主催
【みんなで芋掘り】



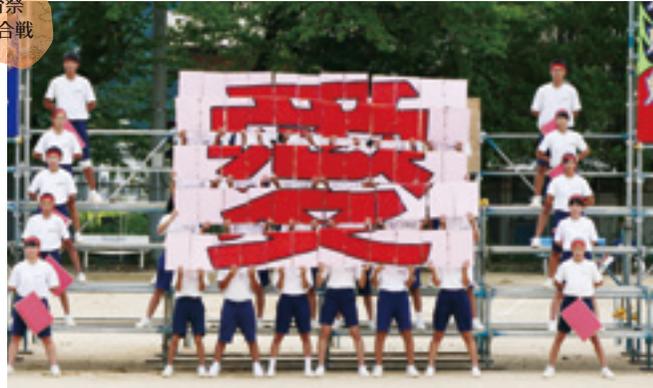
修学旅行の事前学習
として6年生が大仏完成式
を実施



8ジャンプ大会



体育祭
応援合戦



1年生
位山研修
根尾の滝



森の宝島in
はぎわら

沿革

本校は、下呂市萩原町の北に位置し、「上呂、野上、尾崎、山之口、四美、大ヶ洞、奥田洞、宮田」を校区にもっています。位山をはじめ自然の恵み豊かな山々に囲まれ、学校脇を流れる清流飛騨川ではたくさんの鮎が季節の移り変わりを知らせてくれます。

また、校区には南飛騨国際健康保養地の中核施設である南飛騨健康増進センターがあり、ウォーキングコースや体験施設、温泉等が整備されています。



下呂市立萩原北中学校

【げろしりつはぎわらきたちゅうがっこう】



●住所 〒509-2508 下呂市萩原町尾崎61番地
●TEL 0576-55-0070
●生徒数 84名



学校の
教育目標

希望・勇気・感動 ～志をもって生きる～



小集団交流で、
話し合う

学校のたからもの① 「訊く力」を育てる授業

萩原北中学校では、主体的・対話的で深い学びを具現するために「訊く力」を育てることに取り組んでいます。「訊く」とは、尋ねる、質問するという目的な行動です。子どもたちが「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」といった願いをもち、自ら「訊く」ことができるようにすることによって、その子の深い学びを創造しています。「分からないから訊く」「確かめるために訊く」「もっと知りたいから訊く」など、すべての授業で「訊く」ことを奨励し、そのような場面を意図的に作ったり、生徒が自発的に訊けるようにしたりしています。

学校のたからもの② 自治を生み出す生徒会活動

萩原北中学校の四本柱「授業」「清掃」「合唱」「あいさつ」を五つの委員会が支えています。「授業」では、ラウドボイスとハンドサインで、自分たちの手による積極的な授業づくりを目指しています。また、校舎とともに心を清らかにする「黙動清掃」、互いのよさを見つけ認め合いながら心に響かせる「合唱交流」、生活委員を中心とした「あいさつ運動」など、生徒の自主的な取り組みを積み重ねています。



あさざりサニールランド
合唱訪問

学校のたからもの③ 支え合って作り上げる行事活動

「体育祭」「飛翔祭」を学校の二大行事として位置づけ、「君の心に火はついているか？」と全校生徒が互いに鼓舞し合い、自分たちの完全燃焼に向かい力強く取り組んでいます。体育祭では、各学年が赤白の団に分かれ、競技や応援合戦に取り組めます。応援合戦では、自分たちでアイディアを凝らし、また幾多の壁を乗り越えて当日を迎えます。飛翔祭では、各クラスが演劇発表を行い、観客に感動してもらえるよう工夫し、練習を積み重ねて当日の発表に臨みます。

学校のたからもの④ 夢の実現につながる探究活動

総合的な学習の時間「探究」では、1年生「自然と暮らし」「2年生「自分の夢と生き方」「3年生「平和でよりよい社会」を柱として、「地域の自然」「地域の仕事」「地域の未来」について学び、地域への誇りと愛着の心を育てます。これらの活動を通して、将来の進路や夢の実現につなげていきます。

学校のたからもの⑤ 地域とつながるボランティア活動

萩原北中学校では、生徒が地域のみなさんと一緒になって活躍するボランティア活動を推奨しています。ふるさとジュニアサポーターとして、下呂市ウォーキング大会、「JRさわやかウォーキング&桜まつり」「森の宝島inはぎわら」「山之口清流大漁まつり」「四美収穫祭」などに生徒が自主的にボランティア登録をし、中学生の力が地域行事の活力のひとつになっています。また、児童館に向いて子どもたちのお世話をお手伝いすることにも、意欲的に取り組んでいます。

リレーエッセイ 4

岐阜県PTA連合会副会長 | 加藤 拓真
岐阜市立藍川東中学校PTA



穏やかな子育て ～発達障がいと共に歩む～

我が家には穏やかな風が流れています。

とはいえ、始めからそうではありませんでした。小学校に次男が入学したとき、配膳台に潜り込んだり、掃除ロッカーの影に隠れたり、授業中に落ち着きが無いと連絡がありました。どうしたのかとびっくりしました。病院でADHD(注意欠陥・多動性障害)の診断を受けました。確かに、レストランで座っておられず動き回ったり、外出先で一人でどこかへ行ってしまうことが頻繁でした。家でも兄のおかずを奪ったり、言ったことを理解できなかつたりすることが多く、叱りつけることがしばしばありました。どんなに叱っても改善せず、それどころか次男の顔つきはこわばり、物の破壊や、嫌な言葉を発するようになりました。「この子はなんて育てにくいのだろう」と思っていました。ADHDだとわかってからは、夫婦で親の会に参加したり、本で勉強したりしました。

そして、ADHDの子どもにどう接したら良いのかを具体的に学び、夫婦で実践をはじめました。「走っちゃダメ!」ではなく「ゆっくり歩こうね」と言い換えたり、今日これからすることを大きな紙に書いて視覚的に分かるようにしたり、上手くいったらとにかくほめる…などを繰り返し、次男の自己肯定感を高めようとしてきました。通級指導教室や、薬の服用もしながら、数年で次男は落ち着いてきました。あるとき長男が、「うちの親は『あ〜しろ』『こ〜しろ』とガミガミ言わないね」と言ってくれました。ハッとしました。確かに、最近は怒っていないなあ。我が家の子育ては穏やかになり、それは長男の成長にも良い影響を与えていたなあと思います。

長男も次男も中学3年で生徒会長という大役を引き受け、立派に仕事をやりとげました。子育てはもう少し続きますが、親子で共に成長してきた年月だったと実感しています。

次回は… 井藤 あいさん

大切な言葉



私が特に大切にしている言葉が二つあります。それは、「おはよう!」と「ただいま!」です。ある本によると「おはよう」という言葉は、朝起きた時に、「お早いね」という言葉から生まれたそうです。

我が家で一番早く起きるのが、私の女房です。私の弁当を毎日作ってくれています。私は感謝の意味も込めて、毎朝「おはよう」と声をかけています。そして、子ども達が起きてきます。その時、私は大きな声で「おはよう」と声をかけますが、子ども達はあまり元気のいい挨拶をしません。そこで、私は聞こえなかったかのように、もう一度「おはよう」と声をかけます。すると、子ども達は面倒くさそうに「おはよう」と言ってくれます。朝一番の音が、今日一日を元気で力いっぱい過ごす事のできる活力だと思ふのです。また、声の大きさと、朝の子どもの体調がある程度分かります。だから、家族全員に必ず声をかけます。

「ただいま」も必ず大きな声で言います。子ども達が帰ってきた時は、「おかえり」と大きな声で言います。元気がない声が返ってくると、子どもに何かあったのかな?と心配しながら顔を見ます。人間だから、元気でいられない時もありますが、挨拶で心をリセットしたり、声を出すことで何かに気付いたりすることがあります。

当たり前のことを当たり前にするようにするために、まずは挨拶からだ、私は思います。強い体を作るには、心が元気でないといけません。子ども達に強くて元気な心を作ってほしいと思ふ日常を大切にしています。

わが家の宝物

郡上市立大和西小学校PTA会長
矢野原 利彦



わが子のあゆみ
2019.1 No.456 初春号

表紙 関市立旭ヶ丘小学校

1 学校のたからもの

各務原市立各務小学校
坂祝町立坂祝小学校
多治見市立根本小学校
下呂市立萩原北中学校

9 わが家の宝物 矢野原利彦

10 リレーエッセイ ④ 加藤拓真

11 特集先生!ありがとう!

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

19 PTAのABC PTA役員選び方 ③

岐阜市立藍川東中学校PTA
美濃市立藍見小学校PTA

21 家庭教育応援団! ③④

岐阜県環境生活部環境生活政策課

23 「多様性尊重の教育」

みんな、いっしょに 安田和夫

25 保健室ノート 稲川真由美

27 私の先生 ③④ 山田優貴

29 子育て半生記 多治見和哲

31 楽しい読み聞かせ ③
岐阜市立且格小学校PTA

33 私が出会った1冊の本【続39】
佐々木有希子・松田浩一

35 子の思い 所凛音・伊藤布美香・久野辰也

親の願い 柳瀬智之・堀登司仁

40 話そう! 語ろう! わが家の約束
大橋陵賢・白木克郎

41 親子ではてな

42 お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会

43 ふるさとの伝承
本巣市立本巣小学校

45 きらり! キッズ!
本巣市立根尾小学校

47 夢中! 熱中! 我らが部活
関ヶ原町立関ヶ原中学校

49 私たちのPTA
瑞浪市立稲津小学校PTA

機関誌「わが子のあゆみ」

平成30年度 初春号
第70巻4号 通巻456号

発行/平成31年1月1日 岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内

電話/050(509)0251
FAX/050(509)0250

ホームページ/ <http://www.g-pta.com>
Eメール/ info@g-pta.com

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会
「わが子のあゆみ」編集部

印刷/サンメッセ株式会社

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

日本には、「子どもの日」も「母の日」も「父の日」も「敬老の日」もあるのに、「先生の日」がありません。

学校で今日も明日も、義務教育を終えるまで九年間も教えていただき、子どもたちを導いてくださる先生方に、「ありがとうございます！」という日があるといいな、と思います。

本誌では、七月号から「先生！ありがとうございます！」を連載していますが、今号では一挙に二十名の皆さんからの「ありがとうございます！」を届けます。保護者から先生方への感謝の気持ちです。お受け取りください。

笑顔が素敵な池辺小学校の先生方へ

いつもいつも、先生方の子どもたちへの熱心な教育と、笑顔のために努力される姿勢には、大変、感謝しております。どの子どもたちにも隔たりなく平等に接する対応は、学校に子どもたちを預ける保護者にとって、とても安心できる頼もしい存在です。

私が子ども頃の頃の先生方は、どちらかと言うと、いつも苦虫を噛んだ険しい顔が記憶に残っています。池辺小学校の先生方は、常に笑顔を絶やさず、親身になって対応されるので、子どもたちの表情も自然と笑顔になりました。

釜戸小の先生、大好き

私の娘は釜戸小で一番の泣き虫で心配性です。私の遺伝（不安症）を受け継ぎ、仕方ないのですが……。そんな娘に釜戸小の先生方は、きめ細かい対応をしてくださいます。低学年の頃は、ママが死んだらお母さんになってもらう！と言うほど、担任の先生を信頼していた娘。

高学年になり、不安症が顕著になってきました。朝送って行っても車から降りられなくなったり、教室に入れなくなったり……。そんな時も、優しい声かけと手厚いフォローで、娘共々親も救われました。

釜戸小は担任だけではなく、全ての先生が子どもたちの名前を分かっている、本当によく見ていてくださいます。それは小人数だから……。だけではなく、対応に心がこもっています。

娘のような敏感な子どもは、大人の本心が分ります。体裁で言っているのか見抜くことが出来ます。今日も「担任の先生大好き」と、学校の事を楽しく話してくれました。

（足立美樹・釜戸小学校PTA）

それを見ている保護者の顔も自然に笑顔にさせられます。

またPTA活動に対しても熱心に対応いただき、授業などで疲れているにもかかわらず、一生懸命取り組みられる先生方の姿勢に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。どうか、これからも子どもたちの笑顔いっぱいのお明るい未来のために、よろしくお願い致します。先生方のご活動に、出来る限り協力します。

（末岡政則・池辺小学校PTA）

小学校五、六年の担任のN先生

〇〇さんの絵は、皆と一味違うね！

小学校五年生だったか六年生だったか記憶が定かではないが、そんな嬉しい言葉を掛けてくださった。その瞬間、教室が明るく見え、興奮気味に母に褒めてもらったことを頬を紅潮させて話した。

私が五、六年生の時に担任して下さったN

不安な気持ちを払しょく

私はいつも子どもたちに「やる前から諦めるな！挑戦する気持ちが大切なんやぞ！」と言いつつ聞かせてきましたが、父親として挑戦する姿を見せられていないけど、どうなんだろう？子どもたちが納得するだろうか？など歯痒い気持ちでしたが、ある日「PTA副会長をやってくれんか？」と本部役員の方から連絡があり、「無理！出来るわけがないやん！」という気持ちでした。が、アレ？やる前から諦めるとるやん！（笑）……。やるしかない、子どもたちのためや！そんな気持ちで受けました。

本部会など全く状況が掴めずにいる中、校長先生や教頭先生、各担任の先生方が明るく接してくださり、やる気を出させてくれました。「こんな自分が本部役員に？」不安でした（笑）。でも、周りの親御さんや本部の方達も応援してくれました。そんな中、先生方は頭を低くし、時には冗談を言ってアットホームに楽しく本部会など、盛り上げてくれました。気が付けば、不安な気持ちが消えてました。

今の先生方は、いろいろ大変な時代だと思います。その中で、生徒ではない大人たち今まで気を配って下さり、こんな私を助けて下さり素晴らしいと思います。感謝しています。



先生は、そんな風に生徒全員の良さを引き出し、褒め称え、どんな大人しい子どもも自信をつけてくださった。正直、どちらかというところ、厳しい先生だったが、生徒は嬉しいだけでない先生が大好きだった。先生であり、ちょっと若い父親であった。中学に上がる時には、先生と離れるのが嫌で、皆で「先生、本当は中学にも来るんやろ？」と言い出す始末。

大人になった今、あんなに良い先生に我が子は出会えるだろうか？そんな事を考えながら育児をしてきた。そして幼稚園の卒園式の時、校長先生の席に白髪が増えたN先生が見えた。先生、うちの子もよろしくね。

（かねやん・関ヶ原中学校PTA）

おかげ様で、子どもたちに「今のパパはPTA会長！」と背中で見（魅）せられます（笑）先生！ありがとうございます！

（和田邦弘・八幡小学校PTA）

安桜小学校に子どもが通って良かった

私がPTA活動に関わり五年が経ちました。わが校のPTAは、子どもたちの笑顔のために、何かできることを！と常に考えて行動することを歴代会長から受け継いでおります。そんな中、先生たちも素晴らしい方ばかりで、保護者としても学校へ協力したいという気持ちになります。

どちらかだけ一生懸命では、どんな事もうまくいきません。保護者と先生と一緒に、子どもたちの共に向き合い、より良くしていこうと考えなければいけないと思います。

安桜小学校は、先生と保護者が一体となり、とても良い関係が築けていると思います。先生方には夜遅くまでPTAの委員会、会議などにも参加していただき、また休日のPTA活動でも協力していただき、なお且つ、子どもたちに人気のある先生ばかりで、本当に安桜小学校に子どもが通って良かったと思います。これからも、子どもたちのために助けてい

ただくことになりませんが、宜しくお願い致します。本当に有難うございます。

(川嶋健・安桜小学校PTA)

勤務時間外にも

「〇〇さん、おはよう！」

いつも先生が日替わりで、学校の前の交通量の多い横断歩道で旗を持って、子どもたちに挨拶をしながら立ってくださっています。

子どもたちの下校後、家への帰りが遅く親が心配して電話をすると、子どもが寄りそうな場所へ探しに出かけてくださいます。新聞やテレビなどでも、教員の長時間勤務



が問題になっており、本来の勤務時間以外の電話は取らない学校もあると聞く中で、時間外の対応もしていただけるのは本当に有り難いことだと思っています。

普段の生活の中では、こういった対応は当り前になっていき、不満な箇所ばかりが目に行きがちですが、先生方もプライベートな時間を犠牲にしてまで、子どもたちの事を思ってくださいていることを考えると、感謝の念に堪えません。

今後保護者と先生と一緒に子どもたちを見守り、育てていけることを願います。

(橋本益典・北方西小学校PTA)

先生に踊っていただいたソーラン節

中三の息子が小学校最後の運動会前に、マイコプラズマ肺炎に罹患しました。

療養中は、私の心配はよそに「運動会にはきつと間に合うよ。」と前向きな息子。クラス全員からの手紙に励まされ、順調に回復しました。

運動会三日前にやっと病院の登校許可があり、息子は張り切って学校へ行きました。しかし体力が続かず、泣く泣く早退することになったのです。「運動会で何ができるのだろうか」と二人で悩み抜いた結果、五・六年生で踊るソーラ

ン節のみ参加させてもらうことを決断しました。

その日の夕方、担任の先生にその旨をお伝えすると、先生が家までお越しになり、ソーラン節を踊ってくださいましたのです。息子の表情が一瞬で明るくなりました。運動会当日は、仲間を支えられて無事最後まで踊り切り、クラスの団結する姿を見届けることができました。

あの時、私たち親子の決断を待ち続け、諦めかけた息子に希望の光を届けてくださった先生に、今でも深く感謝しています。

あれから三年。息子の部屋には、「全力」と自分で掘った手作りの額の中に、先生と一緒に撮ったクラス写真が、今でも大切に飾ってあります。

(匿名)

進路・部活・学校環境など たくさんお世話になっていきます

校長先生にお会いした時、どこかで見たような？そう、私が生徒の時お世話になった先生で、その教え子や先生方のお子さんたちが今の私たちの子どもを指導してくれています。私たちの頃と変わらず、熱心に教育していただいています。

先般、学校の環境整備に参加した時、この辺は念入りにやろう！この辺は草刈りをしておこうなど、一生懸命整備していました。何

故だろうと思ったら、学校の最大イベント体育祭にむけて、子どもたちが整備されたグラウンドで競技し、保護者の方々が木蔭で観戦、昼食をとれるよう、汗を流し作業していました。前日まで雨で、体育祭当日も朝早くからグラウンドの水取りをしていました。

お陰さまで、無事盛大に行うことができました。普段、勉強以外でも、進路・部活・学校環境など、先生方にはたくさんお世話になっています。家庭では、自分の姿を見せない子どもたちも、先生の前では見せていると思います。親子それぞれ、すごく感謝しています。

(我らサポート隊・古川中学校PTA)

子どもたちを見ると、 先生方の姿が想像できます

私は小六の娘を持つ父親です。娘は明るく、挨拶もできて素直な子どもに育ってくれていると思っっています。お友達もたくさん紹介してくれました。ありがたい事です。

家族だけでは、こうはいきませんね。地域の方と学校や留守家庭の先生方からの「やさしい接し方」を肌で感じて、自分の行動に反映できていると思います。お友達にはもちろん、男子生徒もいます。そのときの私の気持ちは微妙ですけど。

さて、私は家庭訪問・授業参観・個人懇談は、何とか仕事の都合をつけて参加しています。なぜなら、担任の先生を知るよい機会として捉えているからです。授業参観へ早めに行くのと、真桑小の生徒たちは掃除の時間です。「こんにちはー」と、笑顔で元気のよい挨拶をしてくれれます。このとき、先生方が毎朝元気によく笑顔で実践している情景が想像できます。

参観中では、子どもの興味を引く工夫もあり、それが学習好きになる動機に繋がると信じます。先生、ありがとう、頑張ってください！

(りゅうサン・真桑小学校PTA)

拝啓、M先生へ

暑さ厳しき折ではございますが、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。いつも最前線で娘を見守ってください、ありがとうございます。

普段は冷静で物静かな子が、運営委員長の大役に臨み、様々な場面での活躍を無事成し遂げられたのは、先生の支えがあったことだと感謝しております。

元々は自分のことは後回しで、友だち関係が上手いくような気を遣うことが多く、前に出るタイミングを逸してきたけど、小学校集

大成の年にきっかけを作って下さり、娘にとっても私たち親にとっても貴重な体験ができました。

M先生のご健康と、これからの学校での一層のご活躍を祈念いたしております。本当に、ありがとうございます。

(匿名)

全ての先生へ、ありがとう

平成二十二年度は幼稚園、二十七年度は小学校、三十年度は中学校の本部役員をさせていただきました。諸先生とお話しさせていただく機会も増えました。役員だからこそ、先生たちの想いを感じる事ができ、その想いを子どもたちがどう受け止め成長していくのか、わが子の成長を見守りながら、先生方への感謝しかありません。ありがとうございます。一言で良いのか？とさえ思えて仕方ありません。

最近、忘れられない校長先生からの一言がありました。

「言葉ではない。態度で示していくことこそが躡であり、子どもたちに伝わるのです。」私もその通りだと思っっています。先生方への感謝の気持ち、学校のため、子どもたちのためと行動で示していこうと思います。

この場をお借りして「日々、子どもたちの

ために一生懸命頑張ってくださいる先生方、ありがとうございます。」
(匿名・垂井北中学校PTA)

静岡県の病院に約六ヶ月間入院して

私には、中学二年生になる息子がいます。今は、普通に学校生活を送っていますが、昨年の九月頃から病気のために日常生活が送れなくなり、検査や手術治療を含めて静岡県の病院に約六ヶ月間入院していました。入院生活には、妻が付き添い息子の身の回りの世話をしていました。先の見えない入院生活は、息子からやる気や元気を奪い、私たち夫婦も息子の未来を悲観していました。

そんな時、当時の担任であった二十代の若い女性教諭が息子のことを気に掛けて、妻の携帯電話を通しての連絡、クラス合唱を録音してクラス全員の寄せ書きをもって、片道三時間はかかる病院までの見舞いに来てくれました。「学校やクラスに居なくても自分の生徒だから当然のことです。」と話されたときは、親として本当に嬉しかったことを覚えています。

今は、病氣も回復し勉強での遅れはあるものの学校にも自転車通い、部活動にも励みの好きな長男は、中学校の吹奏楽部で励み、年一回の合唱発表会にも力を入れてきました。中学二年生の発表会で、指揮者を担当することになり、周りを驚かす指揮者振りを披露して、見事指揮者賞をいただくことに。どこで学んだかを聞かれると、「Nコンの先生」と回答。

この話が伝わり、今年、台風で予定時間が前倒しになった中学校最後の定期演奏会に駆けつけてくださり、演奏を聴いてくださいました。それを知った息子は、夕食時には、話が止まりませんでした。音楽のできる学校を目指します。

息子に、夢と希望を与えてくださった先生に、心より感謝しています。

(渡辺昇・垂井町北中学校PTA)

先生の偉大さ

娘が席田小学校に入学し、あつという間に六年が経ちました。その間にいろいろな出来事がありました。

娘が「学校が嫌だ」と泣いたときは、父親としてどうしてよいか分かりませんでした。担任の先生に相談すると、その日のうちに娘に声をかけて励ましてくれました。その声かけが良かったようで、娘はその日から徐々に元気にな

学校生活を送っています。

(焔硝岩豊・高田中学校PTA)

これからも一緒にお願ひします

まだ息子が小学校に慣れないころ、マイペース過ぎてたくさん先生に迷惑かけたつけ。初めての個人懇談が怖かったけれど、息子のいいところをたくさん見つけてくれて、ありがとう。

二年生になった息子、クラスのみんなの前で発表する。メモを作って、家で練習もしたけど、本番になると何も言えない。先生が何日もチャンスをくれ、発表することができた。たくさん待っていてくれてありがとう。

六年生の最後の運動会、子どもと一緒に声をガラガラに枯らしていた先生。のどを大切に、身体を大切にしてください。

毎日の宿題、毎日チェックするのも大変。たまに励ましのコメントも書いてくれると、子どもも私も、うれしいな。

思っていたよりも、子育ては大変！子どもの見本になる事もしんどい。けれど、やればやっただけの価値はある。先生、これからも一緒にお願ひします。

(川口友美・那加第一小学校PTA)

りました。ちょっとした一言で子どもの気分を変えられる先生の偉大さを知りました。

『先生への手紙』

先生、いつもありがとうございます。

先生はいつも残業や休日出勤でお忙しいようですね。お体には気を付けて、休日にはゆっくり休むなり、羽を伸ばすなりしてください。もし何か困ったときは、席田小PTAを頼ってみてください。PTAや保護者と一緒に問題を解決させましょう。

そして忙しさが軽減されて、ある程度の余裕が出来たら、笑顔で子どもに接していただき、先生が理想とする教育を子どもたちにしていたけると嬉しいです。

(汲田雅司・席田小学校PTA)

親が見つけられない良いところ

長男と次男が、運よく同じ先生に担任をしていただけになりました。二人は性格が正反対なので、年の始めに、先生にそのことをお伝えした記憶があります。

夏休みの前に、先生から「兄弟二人の共通点は、掃除をとて丁寧にすることができるところですね。」と、教えていただきました。几帳面な性格の長男は分かりませんが、まさ

中学時代の恩師に

小さな頃から、なりたかった職業は、あまり現実的ではなく、言葉にすると幼稚な夢に聞こえるものでした。

そんな私の夢を笑わず、進路としてしっかり相談に乗って背中を押してくれた中学時代の恩師が昨年、定年退職されました。

私は無事、夢だった職業に就き今でもその世界で働いています。

あの時、先生が真剣に向き合ってくれていなければ諦めてしまっていたかもしれません。きっと最後まで沢山の生徒と真剣に向き合って、あと一歩の背中を押してきたことだろうと思います。

先生、私の話、たくさん聞いてくれてありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

(匿名・穂積小学校PTA)

夢と希望を与えてくださった先生

わが家の中学三年の長男は、音楽が好きで小学校高学年の時から、合唱クラブでNコン金賞を目指して頑張ってきました。

その時担当してくださった先生は、長男が中学校に上がると、転任なさいました。音楽

か細かい作業が苦手な次男が、掃除に真剣に取り組むなんて、思っていませんでした。

そこで夏休み。次男に玄関掃除を頼んだところ、タイルの目からレールの溝まで、見えるほどきれいに掃除をしてくれました。

先生は親の私が見つけられない、繊細な部分までよく見ていただけていますね。引き出してくださいましたのかも知れません。毎日、子どもたちと接し、一人ひとりの良いところをみてくださる先生に感謝です。ありがとうございます。

(春日井理恵・羽島市中央小学校PTA)



みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
 じ くう ほ けん
時空保険
 たん さ ぶ
探査部
 Space-time Insurance
 Exploration Department

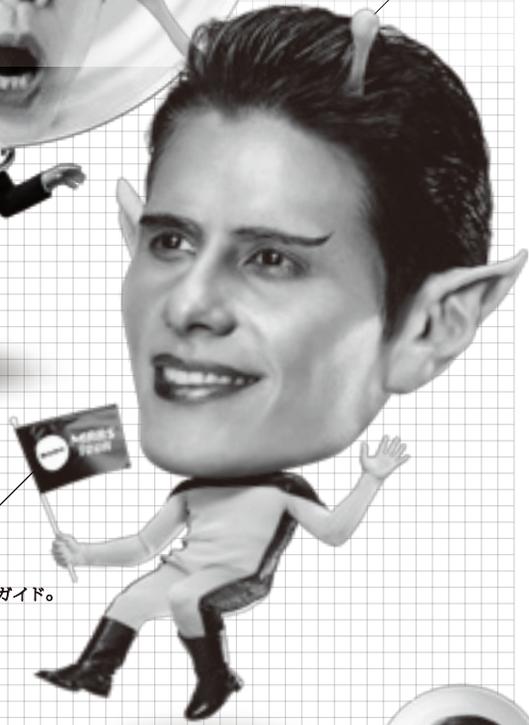
立ちどまらない保険。
MS&AD
 三井住友海上



職業：
宇宙旅行ガイド。



宇宙船が転せる。



弱点：
触角を握られる。



宇宙旅行計画、続々。

20万ドルの火星旅行や月周回旅行計画の発表など、宇宙が未知の世界からレジャーを楽しむ場所になる日もそう遠くはないかもしれません。24時間単位で入れる「1DAYレジャー保険」をはじめ、もっと気軽に、安心してレジャーに出かけられるように、私たちの保険は進化しています。

あなたを守る。あしたを作る。三井住友海上

遅くまで授業の準備

六月に学校評議会に参加し、全クラスの授業を見学させていただきました。日頃の授業参観では、どうしても子どもものクラスを見てしまうため、なかなか他のクラスを見る事がなかったのですが、とてもいい機会になりました。全クラス見終わり、驚いた事があります。それはどれ一つ同じ授業が無く、担任の先生の熱意あふれるとても温かい授業だったという事。印象に残った授業の一つに、一年生の国語の授業がありました。

スイミーの本読みをしていました。本読みというので、挙手をして一人ずつ読む、なんて事がイメージで浮かぶと思いますが、このクラスは違いました。

句点ごとに、読みたい所を読みたい子がその順番になったら立って読む。だから一つ目の文は五人くらい読んだかと思えば、二つ目の文は五人ほど、といった様に、見ている面白い授業でした。子どもたちもとても楽しそうなので、こうして子どもたちのために毎晩遅くまで授業の準備をしてくださっている姿に感動しました。先生、ありがとう！

(尾関里佳・山手小学校PTA)

「見守る姿勢」

中学三年の長女がおります。中学生生活の中で、私が思っていたこと以上にいろんな事に興味を持ち、チャレンジしている姿がありました。でも、参加する中で何をすれば良いのか言われるまで待っていたり、分からない事を聞きに行こうとはしない娘でした。

たしかに、家庭では早く事を終わらせたい思いで私が細かく言ってしまう、自分で考えるように待つてあげたり、問いかけてあげるような時間を作っていませんでした。

しかし、三年間の部活動の中で先輩という立場になり、後輩に指示を示す姿に成長してました。先生方がとやかく言わず、責任という形で気持ちを持たせ、自分から「こういう」―「あれはどうだったかな」―先生に確認しよう―と考えて行動し、みんなに伝える娘の姿がありました。

先生方の見守る姿勢には、大変感謝しております。

(せっかちな母・垂井北中学校PTA)

部活動、クラブでお世話になった先生

私には三人の男の子もがいます。長男・

次男は学校の部活動・野球部でお世話になり、中学三年生の三男はバレーボールクラブで活動し、共に指導者は教員でした。

野球部・バレーボールクラブも指導は厳しく、土日とも練習試合が多く活動していました。先生方も私たち同様、地域の行事など忙しいと思いましたが、多くの時間を子どもたちの指導にいただきました。近年は、先生方の休日の部活動に対して全国でも問題になっています。

子どもがお世話になった先生は、練習中の指導には厳しさはありますが、反面、やさしさもすぐ感じました。勝利主義の指導の中にも、勝つためには何をするかを考えさせられ、団体競技での指導の難しさ、厳しさの中でもやさしさのある指導を、親である私も勉強させていただきました。

先生、ありがとうございました。更なるご活躍を期待しています。

(匿名・垂井北中学校PTA)

「先生！ありがとう！」には、この他に平林さん・白置さん・長谷川さん・高橋さん・カツンさん・長井さん・伊藤さん・田之畑さん・坂田さん・美濃羽さん・MNさん・八名の匿名さんからご寄稿いただきました。誌面の都合で掲載できませんので、来年度七月号に「特集・続 先生！ありがとう！」として掲載させていただきます。

編集部

PTAのABC

連載③

PTA役員の選び方③

「PTA役員の選び方」⑤ 岐阜市立藍川東中学校PTA 一、本部役員の選び方

①指名委員会はクラス一名＋本部役員（二～三名）で構成されます。

コミュニケーションをとることが難しい一面もありました。小学校で一緒にプール当番をしたとき、集合したメンバーに一方的な説明をされた後、私との方がポツンと残ったことがありました。

日本語での早口の説明によく理解できなかったようです。身振り手振りで教えてあげたら、ニコリと笑い、自分の担当場所へ行くことが出来ました。いつもニコニコとしていて、分からないことはとりあえず周りに聞き、役員の仕事を一年間やりきる事ができました。

こうした役員の姿に、PTA活動は「誰かに任せる」のではなく、会員同士が助け合ったり、声を掛け合ったりするなかでより良いものとなっていくと感じました。

自分自身、小中合わせて本部役員を約八年、経験してきました。なぜこんなに出来たのかと振り返れば、本部役員のメンバーに恵まれたからです。当たり前ですが、みんな家庭をもつ身です。家庭や我が子を犠牲にするような無理をしてまでPTA活動をやる必要はありません。過去から引き継がれてきた行事や慣習、地域からのいろんな依頼などが、PTAに舞い込んできます。会長として、「必要ないことや無理なことは

②指名委員のうち、クラス一名は新年度最初の役員決めと同時に引います。本部役員はその年度で役員を退任する人から選出します。

③本部役員は会長・副会長（二名）・書記・会計で構成されます。

④副会長は二つの自治会があるため、二名でそれぞれ担当を分けていました。しかし、会員数の減少により地域ごとに出選することが難しくなり、現在は地域ごとには選出していません。決定した二名の副会長がどちらの自治会を担当するか決めていきます。本部役員の任期は基本を二年とし、一子一役が基本です。

⑤候補者へのアプローチは指名委員会で選考し、優先を決めて当たっていきます。最初は電話でお話しし、直接会ってくださる方に説明に伺います。

⑥大まかな一年間の仕事を説明するプリントを作成しています。

⑦立候補は募っていません。

⑧任期は二年が基本です。それ以上希望してやることは可能です。

⑨免責事項は細かいことは決めていません。状況によって相談します。

⑩就任の了解が得られないときは、優先順位の次の人に当たります。

やめて、もっとみんながやりたいことと、できることをやってみよう」というメッセージを常に発信してきたつもりです。

その結果、不要な仕事を減らし、より子どもたちのために有益なことができるようになりました。ともに活動した本部役員からは「一緒に活動できて楽しかった」「会長と一緒にだったから良かった」という声を聞き、本当にやってよかったと感じました。近々、数年前に共に活動したメンバーと久しぶりに集まる予定です。何年経ってもまた会いたいね、話をしたいね」と言える関係を作れたことは、この地域でこれから長く生活していく上で、大きな宝物を得たような気がします。

また、我が地域も前述のように少子高齢化が進行していますが、だからこそ、地域の方が子どもたちを大変大切にしてください。まさに地域によって育ち、守られている子どもたちです。将来の地域社会を担う大切な子どもたちを育てることもPTA活動では大切だと思いましたが、多くの人がPTA活動に積極的に関わって、子どもたちや学校の運営、そして地域のために、より必要で有益なPTA活動ができる

二、学級委員の選び方

①最初は立候補を募ります。複数出た場合はじゃんけんを行います。立候補がない場合はくじを行います。

②対象となる委員会は広報委員会・成人委員会・保体委員会、各学年委員会です。

③役員選出のタイミングで仕事内容の説明をします。

④希望すれば複数年できますが、ほかに立候補があればじゃんけんです。

⑤選出されるクラスで全員に事情を説明し、承認が得られれば免除されます。

⑥委任状の方が選出された時など、連絡がつかず了解を得られないときはクラスの責任で連絡をきちんと取っていただくか、別日に再度集まって決めてもらいます。

三、役員選考での課題など

少子化による会員数の減少により、なり手が減ってきています。一子一役を原則としながらも、全員が一度は終え、二巡目に入ることが現実的になっていきます。また、中には「役員を引き受ける」と言いながら、

一年間に一度も活動に参加しない方もおり、課題です。

目指す理想の役員の姿としては、どの役職も立候補が一番望ましいけれど、たとえくじ引きで決まったとしても嫌な顔をせず、一年間の役目を楽しく生き生きと活動していただけるいなあと思います。

小学校、中学校と本部役員を経験してきて、「すばらしいなあ」と感じる役員の方がいました。

ある耳が不自由な方は、懇談会の時などは手話通訳の方と一緒に参加されていました。他の方がさまざまな断る理由をつけて役員決めに逃れようとするところ、自分のハンディを理由とせず、役員決めのくじを引き、当たりました。一年間、学級委員としてしっかりと活動を成し遂げられました。何よりも、いつも笑顔で一生懸命に自分の思いをクラスの保護者に伝えようとする姿勢に感動を覚えました。学級委員として決められた地域の清掃などにもきちんと参加をしてくださいました。何よりも、そうした障がいを持つ方が役員になることで、クラスの保護者の方々も協力的になっていったように思います。

同じように積極的な外国籍の方もいます。日本語があまり話せず、

ようにしていきたいです。
(PTA会長 加藤 拓真)

「PTA役員の選び方」⑥ 美濃市立藍見小学校PTA

一、本部役員の選び方

①選考委員 八名

PTA規約の第三十五条に「(一) 役員選考委員会は、各支部代表二名(支部長＋一名)と学校代表一名をもつて組織する。(二) 各支部や地区委員の中より役員選考委員二名を決定し、地区委員と支部長とともに報告する。(五) 会長は、役員選考委員会の顧問として会合に立ち会う」となっているのです、それに準じて決まっています。

②PTA役員が三月までに決まります。

③選ぶ役職は会長一名、副会長二名、家庭教育学級長(兼母親委員長)一名、書記一名、会計二名。

④任期は一年です。過去十年で本部役員を経験した保護者は除外します。

⑤立候補受付後、立候補が出ない場合、翌年六年生になる保護者による投票で決めます。一名立候補の

場合は信任投票、複数名の場合は投票をして決めます。

⑥各職務の内容は、選挙結果を伝える際、職務の内容等について選挙管理委員、顧問のPTA会長より説明しています。

⑦免責事項はありません。

⑧就任の同意が得られない時は、開票結果の二位の方にお問い合わせします。

二、学級委員の選び方

①二月の学級懇談会で保護者の方が話し合われて決めています。

②対象となる委員会は学年委員会、家庭教育学級役員会。

③委員会の内容は、学級懇談会で経験者の方から説明があります。

④役員は複数年(回)できます。

⑤免責事項はありません。

三、課題

・市や県のPTA役員など、学校以外の仕事が多く、負担になっています。

・一年で交代されることで負担は軽減されていますが、自主的な動きは難しいです。
(二十九年PTA会長 平林 巳登志)

実践紹介2 岐阜市立鷺山小学校

ポイント 地域ぐるみで家庭教育力アップ
(地域団体と連携し、公民館講座を活用した家庭教育学級)

鷺山青少年市民会議では、「ケータイ」「虐待防止」「働き盛りのお父さんお母さんの健康」等、子育てや家庭教育に直結する内容のミニ集会を行っています。今回は、「家庭の食事、給食から見えてくる生活習慣」というテーマでミニ集会を開催し、地域の方々や小学校保護者、教員が参加しました。



ミニ集会「家庭の食事、給食から見えてくる生活習慣」
(講師：弁当の日応援団 in 瑞穂代表 麓 英里氏)

VTR「はなちゃんのみそ玉」
・余命数年の母親が5歳の娘に残した「生きるための食～味噌汁作り」
現代の食の現状
・便利な生活の裏で、毎日の食事がおそろかに・・・

→ **自分で考え実践できる子に。**
そのような子どもを育てるために、姿で示せる大人に。

例：味噌玉づくり（お湯を注げばすぐに味噌汁ができる）

保護者の感想

- ・親の姿勢、立ち位置、気づきを教えてくれる集会でした。勉強になりました。
- ・改めて親子の関わりを見直しました。「食」を通じてたくさん子どもとかわりたいたいと思いました。
- ・改めて食の大切さを感じました。小6の長女が台所に立つことが増えたので、これからも見守っていくことが大切だと思いました。

ミニ集会の翌月には、味噌玉づくりの講師を招いて、公民館講座「味噌玉づくり」が実施されました。

青少年市民会議主催の「ミニ集会」に小学校の家庭教育学級生が参加しています。「食」に関する学びを深め、希望すれば、翌月の公民館講座において、「ミニ集会」で取り上げられた味噌玉づくりが体験できるという地域ぐるみの活動です。

地域の子どもたちを心身ともに健やかに育むために、青少年育成団体との連携や、公民館講座の活用など、地域との連携を進めることで、保護者の学びだけでなく、地域のつながりも深めることができます。鷺山地区ではその地域力の高さが、地区全体の家庭教育力を向上させています。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！ぜひご覧ください！！

岐阜県 家庭教育学級

お気軽にご相談ください！

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

- 環境生活政策課 ☎058-272-8752 (直通)
- 西濃県事務所 ☎0584-73-1111 (内線219)
- 中濃県事務所 ☎0575-33-4011 (内線210)
- 可茂県事務所 ☎0574-25-3111 (内線208)
- 恵那県事務所 ☎0573-26-1111 (内線209)
- 飛騨県事務所 ☎0577-33-1111 (内線235)

実践紹介1 土岐市立妻木小学校

ポイント 学校行事とつながる家庭教育学級
～ 三行詩 あったか言葉を親子でつくってみましょう～

学校行事参加型
在宅取組型

土岐市立妻木小学校では、地域・家庭・学校が連携し、コミュニティースクールとして、ふるさと学習や地域行事参加型活動等の地域学校協働活動を行っています。今年度、学校行事とつながりながらPTA役員会で取り組んできた活動のまとめとして、7月から9月にかけて、「『語ろう!話そう!わが家の約束』運動 三行詩『あったか言葉を親子でつくってみましょう!』」に取り組みました。

三行詩につながる活動の流れ

- 交通安全教室 平成30年5月23日開催
1・2年生の歩行指導と3年生の自転車教室にPTA役員と学級委員約30名が参加しました。子どもと一緒に道路を歩くことで、低学年の歩行は、思っていたより危ないことに気付くことができました。
- 歯みがき教室 平成30年6月28日開催
3年生親子で、歯科衛生士の方から、歯みがきについて学びました。親が膝の上で子どもの仕上げ磨きをする事の大切さを教えていただきました。
- 子どものネット安心安全教室 平成30年6月29日開催
5年生親子が参加し、スマホ・ケータイやインターネットとの関わり方を親子で一緒に考えました。
- 家庭学習の取組についての交流 平成30年6月28・29日開催
全ての学年学級懇談会で、家庭学習をテーマに子育てサロン型の家庭教育学級を実施しました。
- ファミリー読書 平成30年6月19～28日実施
学校の図書館祭りに合わせて、テレビを消し、読書の時間を家族で楽しみました。

こうした取組を通して、三行詩「子どもから親へ、親から子へメッセージとアンサーメッセージ」を、全保護者へお願いしました。

保護者への案内の裏面に、役員自ら三行詩の例文を作成して掲載しました。



三行詩の紹介

〈子から親へ〉
お母さんがお話を読む声をきいていたら、やさしい声で気持ちよくて、ねむくなってしまったよ。
〈親から子へ〉
久しぶりに君を膝の上ののせて一緒に本を読んだけど、伸びた身長で本が見つづらくて、苦笑い。でもなんか幸せ。
〈子から親へ〉
宿題を見てくれてありがとう。はなまるつけてくれてうれしい。
〈親から子へ〉
お兄ちゃんもお姉ちゃんもいない2人の時間。宿題もお話もできて、貴重な楽しい時間だね。

役員が中心となり、保護者と共に取り組む学校行事になっています。親子で活動する中で、学校で見せる子どもの姿からよりよい子育てを学び合っています。また、取り組んできたPTA活動を、「語ろう!話そう!わが家の約束」運動につなげて、「三行詩」を作ることを全保護者に呼びかけたことで、家庭内や学校内に家族のあたたかい言葉が広がりました。

PTA保健母親部会の役員同士が協力し、役割分担して主体的に活動されたことも取組成功への大きな原動力になっています。

本当の学びの意味を教えてくれたA君

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

日光への修学旅行

今から四十年近く前のことです。私が、障害のある子どもの教育について学んでいた大学四年の秋、大学の先生の紹介で、関養護学校（現在の関特別支援学校）高等部の修学旅行にボランティアとして参加することになりました。

日光をはじめ、関東の名所を巡る三泊四日の修学旅行。重度の障害のため、介助を必要とする生徒が多く、ほとんどご家族が同行されていましたので、移動のバスの中は、生徒、ご家族、先生で、ほぼ満員となりました。

私は、ご家族の都合がどうしてもつかなかったA君の移動介助を行うボランティアとして、車いすの操作や、背中に背負った移動を行いました。実は、A君は、進行性の筋ジストロフィー症という病気を発症しており、下半身の筋力の衰えから立っての移動は困難な状況でした。修学旅行当日を迎えるまでは、「どんな話をしたらいい

いのだろう」「病気のことはふれな

いようにしなければ」とか、私はとてもナイーブになっていました。が、そんな心配をよそに、A君は、とても明るく、調べた修学旅行での見学先の話をいっぱいしてくれました。また、車内は、子どもたちの笑顔と歓声に満ちあふれ、先生方やご家族は、慣れない私に気を遣っていただき、積極的に話しかけてくださるなど、楽しくてたまらない毎日となりました。

日光では、何段もある石段をおんぶで移動したのですが、A君と一緒に登り切った時に見た紅葉は、今も忘れることのできない風景となっています。

なぜ英語を学ぶのか

修学旅行が終わって数週間後、寄宿舎で生活するA君のところへ遊びに行きました。A君が、「ぜひ一度来てほしい」とリクエストしてくれたのでした。A君は、自室で、机に向かって勉強をしている

ところでした。

「何を勉強しているの?」と聞くと、「うん、英語だよ。」と笑顔で答えてくれました。当時、英語は、私の苦手科目であったので、あえて「英語が好きなの?」と聞くと、「好きだよ。」と答えて、続けて、こんな話をしてくれました。

「僕は、海外に飛行機に乗って世界旅行してみたいんだ。でもね、こういう身体だと、無理かもしれない。だから、英語を人一倍勉強して、世界の友達と文通したいと思っているんだ。文通だったら、できるでしょ。いろんな国の人と、友達になりたい。飛行機に乗れなくても、文通で世界旅行ができるんだ。それが僕の夢だよ。」

この話を聞いて、自分がとても恥ずかしくなりました。A君は、受験勉強のため、単位を取るために英語を学んできた自分に「なんのために学ぶのか」「学ぶ楽しさとは何か」を教えてくれたのです。

同時に、「それまでできていたことができなくなる」「自力で移生活を共にする機会があれば、もっと多くのことに気づき、人が人として向き合うすべを身につけていけるんじゃないかと感じました。交流及び共同学習は、「障がいのある子どももない子どもも」という言い方をよくしますが、その時点で、すでに分けているのかもしれません。

先日、美濃加茂市の幼稚園を訪問させていただきました。子どもたちは、仲間の様々な違いを特別なこととして受け止めるのではなく、自然のこととして、一緒に遊んでいました。しなやかな心をもって小さいときから、互いを理解し合える直接的な関わりを増やしていくことの重要性を改めて感じました。

動することが困難で、だれかの介助が不可欠」など、A君の抱える負の部分ばかりを見て、同情の気持ちで見えていたかもしれない自分の至らなさを痛感しました。本当に学ぶ意義を知っているのはA君だ。様々な「制約」は、彼にとって、学ぶ動機を生み出すものとなっていったのです。

「顔を貸してー」とBさん

同じく、大学時代に私に大きなインパクトを与えてくださった方がいます。父と同じくらい年だと思われる姫路のBさんです。

当時、岐阜県社会福祉協議会が発行する「ボランティアの広場」という機関誌の編集委員を務めていたことがきっかけとなり、いろいろな障害のある方々の支援ボランティアを担当させていただく機会がありました。ある日、岡山県から、岐阜を観光される視覚障害者の方々をガイドするという依頼

がありました。自家用車を使っての移動支援、ガイドヘルプ、観光案内を行うものです。私は、姫路から来られたBさんの担当です。実は、移動支援のボランティアの経験は重度の障害者の方々を中心にすでに何回か経験をしていました。が、視覚障害の方は初めてでした。不安そうな私を察してか、Bさんは終始冗談を飛ばして、リラックサさせてくださいました。鮎やなで昼食を食べる頃には、家族のような和やかな会話をするまでになっっていました。

しかし、ガイドヘルプをする際には、安全な誘導の仕方や、見えない風景や出来事の伝え方について、厳しくもわかりやすくアドバイスしていただきました。

一日が終わり、岐阜羽鳥駅に着し、お別れする時には、さみしくて別れがたらくて涙が出てきました。そんな時、突然、Bさんが私に「やすださん、顔を貸して!」とはっきりした口調で、切り出されました。「えっ、何か失敗したの

障害や疾患の有無にとらわれているのは

こうしたA君やBさんとの出会いにより、自分の中にこそ、障害や疾患の有無へのこだわりがあることに気づかされるとともに、子どもの時から、同じ地域社会や学校生活の中で、直接、学びあい、

自分が好き 仲間が好き 学校が大好き

下呂市立竹原小学校
養護教諭
稲川 真由美



「今日も欠席0なんやあ。四十日目やな!」。朝、職員室の欠席黒板を見た校長先生が言います。そして必ず、「欠席0は、絶対にはしらないけど、嬉しいことやな!」と続けます。こうして始まる本校の一日は、休み時間には子どもたちが、時間を惜しんで少しの時間でも元気に外へ遊びに行きます。

本校の学校経営の基本方針は「自分が好き 仲間が好き 学校が大好き!」です。校長先生は、何かにつけてこの基本方針に基づき子どもたちに話をしていきます。学校が大好きを表していることのひとつに、「朝少し体調が悪くても、学校に行きたがるんです」「熱があっても学校が楽しいか

ら行きたいと言うんですけど」という保護者の言葉があります。学校が楽しいと思えることが、欠席が少ないことやがんばる自分につながっているのかもしれない。そういう意味で、全員出席は「学校が大好き」の一つの指標となります。

「仲間が好き」については、「嫌だなあ、やりたくないなあ」と思うことでも、仲間と一緒にがんばっている姿がみられます。みんなと一緒にやる楽しさを子どもたちは知っているので、全校の行事や学級での取り組み、普段の仲間遊びにも、とてもやる気を感じられます。そんな活動を通して、人と人とのつながりや仲間の絆を獲得し、自分一人ではできない心の成長が学校でできるのは大きなことです。日々子どもたちと接していて、人とうまくコミュニケーションをとる力は、今だけでなく生涯において大切な力だと痛感する場が多々あります。保健室に来室した時や普段の何気ない会話の中で、仲間とうまく関わるヒントを見つけたしてくることを願ひ、

ていました。他の委員もそうですが、全校の健康安全面に気を配りながら呼びかけなどを行っている姿がみられます。学級での取り組みも積極的で、全員が完璧にできるようみんなで呼びかけています。そうやって子どもたち同士で高め合うことで、今まで以上に手洗い・うがい・歯磨きなどの基本的な衛生習慣が身に付いていることを嬉しく思い、そして、子どもたち同士の力ですごいなあと感じています。

好きと答えた子ども合わせると七十五%でした。日本は他国と比べると自己肯定感がすごく低いというデータがでてきます。自分が好きと言えることはとても大事なことで、そういう子が増えてくれるといいと思っています。自分を好きな人は自分を大切にでき、周りの人のことも大切にできると信じています。子どもたちの自己肯定感を高めることは私自身もずっと大事にしたいことですが、やはり子どもにとってその基となるのは家庭です。私たちがどれだけがんばっても、保護者の方々の力にはかえません。家庭が子どもたちに与える影響ってすごいなあと日々本当に強く感じています。

し、必要に応じて子どもたちが言葉にしない声を聴き取ることができるよう力を付けていきたいと思っています。そして、生涯にわたって心も体も健康に過ごす力に身に付けさせるために、私自身も日々努力をしていきたいと思っています。そういう力を身に付けさせていくことが子どもたちへの一番の贈り物になることでしょうか。

私も「自分が大好き 竹原小の子どもと職員が大好き 学校が大好き!」です。これからも子どもたちに「あなたは愛されているよ」というメッセージを送り続けたいと思います。



自己肯定感を高めるために、本校では「かがやきみつけ」を全校でやっていて、郵便として自分に届いた「かがやき」を個人ファイルに綴じています。自分の気がつかなかったよさも友達が見つけてくれます。そういう積み重ねが、「自分が好き」につながっていきます。私にも子どもからの郵便が届きます。やはり、大人でも嬉しいものですね。それを見て、「がんばろう!」と思えます。私も子どもたちにお返しをしなければいけません。保健室を訪れた子に的確なフィジカルアセスメントを



個々の子どもたちとの関わりを大事にしています。

委員会活動でも、子どもたち同士の関わりがたくさんあります。前期健康委員長のSくんは、運動会の団長を務めながら、大切な運動会の取り組みの時期でも健康委員長としての仕事を責任をもってやっ



教師としての原点

大垣市立興文中学校 教諭

山田 優貴

「あなたたちは、すごい先輩に出会ってきていないのね。それじゃあ、あなたたちがすごい先輩になりなさい」小学校六年生のときに担任の先生に掛けられた言葉です。そこから私たちは変わっていきました。集会委員会を学級全員で受け持っていたのですが、今まで先輩方が企画してこなかったクイズや劇を取り入れたり、体育館中に飾り付けを行ったりしました。先生の出した課題を乗り越えたり、先生の予想を上回る企画や飾り付けを完成させたりすると、先生は決まって「参った」と言っていて、教室の壁に向かって逆立ちを十秒間してくださいました。私たちは、それが面白くて、それが嬉しくて、先生が逆立ちをする際には「いち、にーい、さーいん…」なんてゆーっくり数を数えたものです。そして、毎回、先生の顔がどんどん赤くなっていく、それをみんなでドカッと笑い合ったことを今でも覚えています。そんな先生のことが大好きでした。

そんなある日、秋の集会に向けて、飾り付けの準備を学級全員でしていたときのことです。私たちは体育館中をぶどうだらけにしよう、それも大きなぶどう。みんなの目に留まって、体育館に入っただけで「うわー」と楽しくなる、そんなぶどうを作ろうと決めました。そこで、

新聞紙を重ね丸めていき、一粒がドッジボールくらいの大きなぶどうを完成させていきました。その時です。先生は「何やっているの？そのペースでいくつ作れるの？」と言いながら水の入ったバケツに絵の具を入れ、紫色をつくる、そして、そこに丸めた新聞紙の塊をべちよつと付け出したのです。「本当に見通しをもって動いているのか、本当に一人ひとりが頭と心をつかっているのか」など、先生は私たちに問いました。いつも私たちに「あなたたちはもっとできるから、頭をつかいなさい。そして、やってみなさい」と言ってくださっていた先生ですが、子ども任せというわけではなく、私たちの足りない部分を指摘し、導いてくださっていました。先生の知恵をお借りしたり、先生と一緒に活動したりする中で、頼りになる先生がいてくださるという安心感のもと、自信をもって活動していくことができました。また、先生に信じられ、任されている喜びと責任を感じ、頭と心を子どもなりに精一杯働かせて活動していたことを今でも覚えています。やりたいと思ったことを自分たちで企画し、主体的に活動することの楽しさも味わいました。

そんな先生の姿は、私の教師生活の原点になっています。「生徒を信頼し、任せること」と「生徒のもつ可能性を広げること」を大切にこれからも教師として目の前の子どもに何ができるのか、頭と心を働かせ共に歩んでいきます。

「はじめの一步… 父親となり」

父親十一年目のわたしには、十一歳と九歳の娘がいます。女の子が産まれ、目尻が少し下がった様な気がします。可愛くて仕方ないという反面、こんな子に育ってほしいなという願望も生まれました。

三歳までに基本的な生活習慣が身に付くように、自分でいろいろなことをやってみようとする姿を描きながら子育てしていました。ハサミも二歳の頃から持たせ、一緒にいろいろなものを切っていました。スーパリーのチラシを見て、好きな食べ物だけを切り抜いてみたり、小さく小さく切って、ビニール袋に詰めてボールを作ったりしていました。

今は、手が切れないハサミも多く販売されていますが、我が家では一度も購入したことがありません。いつもハサミを使うときは、見守れば大丈夫。危ないと思えば、その時声をかけ援助する。と同時に、子どもも今危なかったと認識するという考え方で育てていました。

生活環境も昔と変わり、とても生活しやすい環境にあります。公衆トイレも洋式がほとんどとなり、和式を見かけることが少なくなりました。しかし、学校生活では、和式トイレがまだまだ多く使われています。外出した時は、手間がかかりますが、和式トイレへ連れていき、和式の使い方を体験させていました。和式トイレは、自分の足で自分の体を支えて使用するため、足腰の筋肉も使います。最初は、自分の足で自分の体を支える力の使い方がわからず、お尻が下へついてしまいうつらくなりますが、そこを

援助していくことで一人で和式トイレが使えるようになりました。わたしたちの生活・子育ては、社会から助けられることが多くなりましたが、子どもたちが身に付かずに成長していくことも多くなったと感じています。

子育てしながら一番に感じていることは、「自分で生きていく力」を身に付けてほしいということです。現在では、災害も多くなり、生活に不自由を感じている光景を目にすることが多くなりました。わたしが住んでいる地域でも防災訓練などに取り組み、子どもたちや、地域の方が実際に体験できる機会があります。我が家でも子どもたちに生きる力を身に付けてほしいと四年前からキャンプへ行くことが多くなりました。夏休みだけでなく、オールシーズンキャンプへ行き、暑さも寒さも体験しています。テント張りでは、杭を打って、テントが飛ばされないようわたしのお手伝いをしています。だんだん動きも早くなり、指示がなくても次はこれがあると先を読んだ行動するようになりました。料理作りでは、野菜を洗ったり、お肉を焼いたり、味付けしたりと、姉妹でおまごごとをしているようです。日々の生活のように時間に追われず、心も体ものんびり食事もできます。寒くなれば、たき火をしたり、ストーブをつけたり、暗くなれば、ランタンをつけたりと体で感じて、行動へと繋がっています。お風呂は近くの温泉へ行き、テントの中でシュラフにくるまったりして、ランタンの明かりの下でトランプなどの子ども

もたちの好きな遊びを一緒にやります。日常では、なかなか子どもたちとこんな時間が作れないので大切さを実感しています。もちろんキャンプの準備も片付けも大変ですが、それ以上に得られるものが毎回違って、子どもたちも毎回学ぶものがあります。

キャンプをする中で、マッチというものを子どもたちが知らないということに気がきました。わたしが子どもの頃は家に置いてあるのが当たり前でしたが、今ではマッチが置いてある家庭はほとんどないと思います。

小学校の理科では、アルコールランプを付ける際マッチを使用していました。現在も、着火マンを使用しています。確かにマッチを使用する際、怖い・危ないということで避けられてしまったか



もしれませんが、正しい使用方法も学ばず、大人になつていく子どもたちも心配になります。この世の中から、マッチが消え、着火マンのようボタン一つで火が付くという便利な社会が広がる背後には、失っているものも多くあると胸にしておきたいと思っています。学問はもちろん、生活の知恵を生きる力を共に生活する中で与えていきたいなど父親の役割として強く思います。



PN. ふわゆき (海津市)



PN. Tomosaburo (養老郡)

question 1

出題・伊藤 慎介 (山県市)
〈答えは41ページ〉

座っているのに、空にあるものってな～に？



「読み聞かせ」から、 楽しい本の世界へ！

岐阜市立且格小学校PTA

且格小学校のじまんの一つに、朝の活動の時間に行われる、全校一斉の読書や読み聞かせを中心に行う読書活動があります。且格小学校では、これを若杉活動と言っています。

且格小学校PTA保健体育委員会で、活動のテーマを「心身の発達、体力の向上に努める」とし、このテーマに沿った活動の一つとして、学校の若杉祭り（読書週間）中に、年間二回の読み聞かせを企画しています。

読み聞かせの様子

朝、八時十五分になると、「おはようございます。〇〇さん読み聞かせをお願いします。」と、校長室に迎えに来てくれます。教室に入ると名前と歓迎のメッセージが黒板に書かれ、担任の先生とともに、「読み聞かせ」の準備が整えられています。いよいよ読み聞かせの始まりです。

読み聞かせをする人は、全PTA会員、地域の方々から広く募集しています。初めて会員になった方も

気軽に参加していただけるように、一回目に見学して雰囲気をつかんでもらい、二回目の時にデビューしてもらえる仕組みも考えました。地域のボランティアの方への募集は、且格コミュニティスクールの募集は、且格コミュニケーションセンターの方に依頼し、メンバーを集めていただいています。

PTA保健体育委員になったことをきっかけに、子どもと一緒に地域の図書館に出かけて本を選び、ユーチューブの読み聞かせを繰り返し見て研究をし、家族の前で練習をしてから本番に臨まれた人、



メディアコスモスや県立図書館で大きな絵本や紙芝居を借りて読んだり、書画カメラで本を大型テレビに映しながら読み聞かせたりなど、工夫されています。

本選びに悩んで学校の司書の先生に読み聞かせの相談をすると、「〇年生には、この辺りはどうでしょう?」と、おすすめの本を二、三紹介してくださいるので、とても助かります。

学校では、先生方も「おすすめの本」の読み聞かせを年に数回してくださっているのですが、その本と重ならないように選ぶことも気を付けています。

対象は、全校児童なので、各学年にあった本を選ぶようにしています。低学年では、「3びきのかわいいオオカミ・チロとゆかいななま・わんぱくだんのはしれ!いちばんぼし・よかつたねネッドくん」中学年では、「ぼけっこの海・十二支のはじまり・オリオン越冬隊・おお

はくちょうのそら」高学年では、「落語絵本ときそば・としゃかんライオン・たったひとりのともだち」のちをいただく・姥捨て山」が選ばれていました。

読み聞かせ交流会

十五分間の読み聞かせが終わると、校長室に集まり、お茶とお菓子をいただきながら、メンバー同士で読み聞かせの様子を交流します。「子どもの目つきささる感じがして楽しみにしていることが伝わってきた。」「視覚的に綺麗で見やすい本だったので、長くて最後までしっかり聞いてくれてうれしかった。」「読み手に対して気遣いの言葉をかけてくれ、とてもうれしかった。」「読み聞かせに関わった事により、自分の子どもからも感想を聞くことが出来、良い経験になった。」

この交流会の中で、もっと読み聞

かせを増やしたい。という前向きな意見が出され、昨年度は、図書館祭りのない三学期にも読み聞かせを行いました。PTA会長さんや地域の児童館の先生、PTAOBや元小学校の司書さんなど、メンバーにも広がりが出てきました。今後も、「心の教育」の一環として、本好きな子もあまり本を手にとらない子も自分と向き合い、登場人物や本の世界に関わるきっかけとして、読み聞かせを続けていきたいと思えます。





6さいのおよめさん

鈴木中人 著
文屋

岐阜大学教育学部附属学校
PTA書記 佐々木有希子



この絵本は、小学校に入る前に娘が自分で選んだ本です。自分と同じ年の子がおよめさん？と興味をもったのかもしれない。かわいらしい題名とは反対に、涙なく読むことができないため、我が家にある本の中で一番読み聞かせが難しい本です。

主人公の女の子は小児がんです。病と闘いながら幼稚園に通い、「小学校に行きたい」「みんなと勉強したい」という希望を常にもって一生懸命生きていました。辛い治療を受け、みんなが普通にできる事ができない自分、他人とは違う自分を悲観するのではなく、前向きに生きていく姿が書かれています。悲しい結末になるのですが、その後主人公のご両親は「いのちの授業」を通して命の大切さを子ども達に伝える活動を始めます。

「いのちは当たり前にあるんじゃない、きせきなんだよ。」この本の筆者であるお父さんの、いのちの授業での言葉です。まさに、私が子どもに伝えたい言葉でした。元気に産まれてくること、産まれ

た後も元気に育つこと、自分だけでなく家族も友達も皆元気に過ごせていること、これは当たり前前の事ではなく奇跡の積み重ねであると思います。あまりにも日常になりすぎて忘れてしましますが、この奇跡が途切れる事は誰にでも起こり得る事です。しかしこの日々が幸せだと気づくのは、日常としているものが崩れた時なのかもしれません。

娘は、「子どもが病気で死ぬことがあるとは思わなかった」と驚いていました。子どもは病気になるつもりもいずれ回復するものと思っていたようです。そんな娘の感想にも驚かされましたが、幸運にも身近な人や子どもの死に直面することなく生活してきたので、当然かもしれません。この本を通して、普段の何気ない日常が当たり前前に存在することは、実はとても幸せなことであり、だからこそ自分達は必死に生きなければいけないと、娘と一緒に考えることができました。女の子が亡くなって悲しい、かわいそう、という感想だけでなく、娘にとって学ぶ事の

密度が高かったと思います。

この本は絵本ではありませんが、親の目線から読んで、忙しさの中で忘れていた事を思い出させてくれます。元気に産まれてくれることだけを願っていた頃の事や、今元気に成長してくれている事が、今元気に成長してくれている事が、家族が元気で子どもの成長を見守れるという日々が、単純ではあるけれど一番大切な日常だと再認識することができ、日々の生活を少し反省させられました。もちろん、現実に生きていく上でただ命さえあれば、どう生きてもいいわけではありません。しかし健康であるからこそ、この奇跡を大切にしたい、自分のできる限りの生き方をしてほしいと思います。特別な事ではありませんが、日々の生活の中で子ども達の存在が当たり前前となってしまい、家族が話題にもしていなかったような気がします。

若い世代の自殺の増加も問題となっていて、どんな命も2つとなく、かけがえのないものだという事、日常で取って話になる事は少ないかもしれませんが、素直に

りしないで子どもと何度も向き合いたい問題だと思います。

この本が命について家族で考えるきっかけにもなると思います。ぜひご家族で読んで頂きたいと思っています。

武士道

新渡戸稲造 著
奈良本辰也 訳・解説
三笠書房

可児市立蘇南中学校PTA会長
松田浩一



大学を卒業して、地元に戻り家の内装工事を継ぐ為、修行を始めたころ、本屋に立ち寄りふと目にしたのが、この「武士道」の

一冊です。まず、気になったのが、「人に勝ち、自分に克つ、強靭な精神力を鍛える」というサブタイトルでした。幼少から、剣道を学んできた私にとって、厳しい稽古で心が折れそうになったとき、師匠や先輩が、そして仲間が励まし支えてくれた言葉です。「弱音を吐くな、もう一息、がんばれ、もう一分張りや」と。内装の修行を始めた私にとって、なぜか懐かしいような、そして、強く背中を後押ししてくれているような気がしました。決断を迫られたとき、リーダーシップをとらなければならぬ時、迷った時など、生きていくうえで座右の銘になっています。

この著書は、新渡戸稲造氏が三十七歳のとき、アメリカ滞在中に英文で書かれたものであり、英語版だけでなく欧米を中心にさまざまな国の言葉に訳されています。

この著書に書かれている内容は、武士道とは道徳であるということでした。直訳すれば、武士すなわち、サムライの道であるが、もち

ろん剣術、柔術の武は含まれますが、大きくは人としてのあり方や行き方、物事の捉え方を大切にすることに重きを置くということです。この書の中で印象に残ったのは、五徳といわれる「仁・義・礼・智・信」です。儒教の中で、最高の道徳とされていますので、説明したいと思います。

「仁」とは、自分を愛すること、そして身近な人間を愛し、ひいては広く人を愛すること。真心と思いやりを持ち誠実に人と接して、人間が守るべき理想の姿です。

「義」とは、人の歩んでいく正しい道のことです。義をおろそかにすることは、道を踏み外すことになり、義を貫くことが必要です。本当に人を愛し思いやる生き方は、正義を貫いてこそ成り立つのです。

「礼」とは、他人に対する思いやりを表現すること、親や目上の人に礼儀を尽くすこと、自分を謙遜し、相手に敬意を持って接すること、場合に応じて自分を律し、節度を持って行動することが節といえます。

「智」とは、人や物事の善悪を正しく判断する知恵です。さまざまな経験を積むうちに培った知識はやがて変容をとげ、智となつて正しい判断を支えます。より智を高めるには、偏りのない考え方や、物事との接し方に基づいた知識を蓄えることが必要です。

「信」とは、心と言葉、行いが一致し、嘘がないことで得られる信頼です。嘘のために一度損なわれた信頼を、取り戻すのは難しいことです。たとえ、仁なる生き方を実践していても、人に信頼されないことには社会で生きていけません。信頼は、全ての徳を支えるほどに大切なのです。

情報社会の今日、いいこともそうでないことも、簡単に手に入ってしまうですが、大切なことは、今昔いつ何時も直接人と接し、コミュニケーションを構築しなければよい社会は生まれません。聞きなれない内容がありますが、幅広い世代に通じる考え方だと思えます。

ぜひ読んでみてください。

子の思い

がんばった運動会

北方町立北方南小学校

三年 所凜音

夏休みが終わり、うん動会の練習がはじまりました。わたしは、フラフープのえんぎをいっしょうけんめい練習しました。なぜかというところからです。本番は、せいこうしました。とてもうれしかったです。

学年しゅもくの「たおしてカン！カン！」は、かつために練習で色いろな工夫をしました。しかし、練習ではかっていたけれど本番はまけてしまいました。とてもざんねんでした。

応えん合せんは、全力でふりつけや、声の大きさなどをいしきしました。

けっか発表の時「応えんゆうしゅうは、赤だん」といわれて、とてもうれしかったです。

みんなも、とてもうれしい気持ちだったと思います。

来年の四年生のうん動会は、ダブルゆっしょうしたいと思いました。

やさしい家族

岐阜市立早田小学校

四年 伊藤 布美香

わたしのお父さんと、お母さんは、わたしが辛そうにしていたり、苦しそうにしていたりすると、やさしく声をかけてくれます。

お父さんもお母さんも、毎日毎日わたしよりもいそがしい日々をおくっています。なのに、なぜ、わたしにやさしくしてくれるのかと少し不思議に思うこともありました。わたしは、子どものころから今のように幸せにくらしていることに感しやをしています。わたしが、今、幸せにくらしている理由が分かりました。

なぜかというところ、わたしが病いやけがをしてしまった時に、一番はやく「いっしょに病院に行こう。」とやさしく声をかけてくれたからです。病院につれていってくれたおかげで、わたしは今この

ように幸せにくらしています。お母さんとお父さんが、一生けん命に仕事をがんばってくれているおかげで、とても楽しいです。このお母さんとお父さんのやさしさをわすれずに、これからも生きていきたいです。

お母さんとお父さん、そして、弟のおかげで今こうして生きています。今までありがとう。

「かわいそう」という言葉

羽島郡岐南町立岐南中学校

三年 久野 辰也

あなたは、人から「かわいそう」と言われたら、どんな気持ちになるでしょうか。

ぼくには、喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどがあります。特に、アトピー性皮膚炎は、顔や手首、関節の裏など、人の目につく場所に、症状が出ます。ひどいときは、皮膚が真っ赤になり、血がにじむこともあります。

それを他の人が見ると、「かわいそうだね。」と言います。

ぼくのことを心配してくれているのだと感じますが、それと同時に自分が他の人とは違うと思われるのだから、ぼくは「かわいそう」と言われると、少し悲しくなるのです。

ぼくは、小さい頃から、アトピー性皮膚炎の治療のために、毎日薬を塗っています。小学生の頃、お風呂上がりには、母がぼくのために薬を塗りながら、こう言ったことがあります。

「かゆいよね。切れているところもあるね。かわいそうに。お母さんがアレルギー体質だから、しんちゃんに、かわいそうな思いをさせちゃって、ごめんね。」と悲しそうな顔をして、謝りました。

「かわいそうなんかじゃないよ。」ぼくは言いました。「確かに、喘息は苦しいし、アトピーはかゆいよ。頭が痛いのもつらいよ。でも、そんな思いをしているから、ぼくは、他の人の苦しい思いやつらい思いがわかってあげることができないだよ。だから、かわいそうだって言わないで。それに、これはお母

さんのせいなんかじゃないんだからね。」その言葉を聞いた母は、うれしそうな顔をしているように感じました。

苦しい思いやつらい思いをしているからこそ、ぼくは同じような思いをしている人の気持ちを理解することができのだと思うのです。世の中には、からだか不自由な人、病気の人が、いろいろな人がいます。「自分にはない苦労」をしながら生活しているために、かわいそうと感じることがあるかもしれません。でも、そういう人たちも同じ目線に立って、接してもらえる方がうれしいと思うのです。

何か「かわいそう」と思ったときには、かわいそうと思うのでは

なく、共感の態度や言葉に変えてほしいと思うのです。ぼくも、「かわいそう」ではなく、同じ目線に立って接することを大切にしていきたいと思えます。

親の願い

話す前に一呼吸

垂井町立東小学校PTA

会長 柳瀬 智之

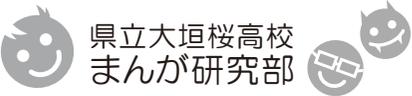
毎日、私たち親は、何気なしに子どもたちと朝の挨拶をはじめとして、会話を通してコミュニケーションを図り、過ごしています。しかし、会長としての役割に就い

てから、親の言葉や態度の重みを改めて感じています。

私は、PTA総会の挨拶で、子どもたちの笑顔のために、『スローガン』話す前に一呼吸・相手を思う一呼吸』について話しました。

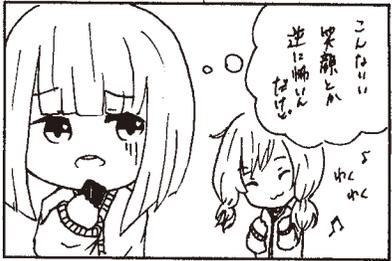
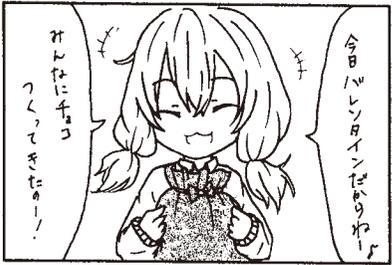
毎日の会話の中で親だけの思いを一方的に話すのではなく、子どもたちがその言葉を聞いてどう思うかを一呼吸置いて考えることで、親自身も感情をコントロールし、感情的な言葉をぶつけることなく上手にコミュニケーションができるようになる。との趣旨を伝えました。

しかしながら実際には、日常の子どもたちのふとした言葉や態度でイラついてしまう時がありま



県立大垣桜高校
 まんが研究部

今年のバレンタインは



逆さ言葉

みずほしほずみ

(瑞穂市穂積)

出題・木戸 綾乃 (羽島市)

あいさつは
「コミュニケーション」の入り口

 羽島市立竹鼻中学校PTA
 会長 堀登司仁

「おはよう」「こんにちは」「いつもお世話になります」挨拶はいろんな場面でつかわれます。皆さんは挨拶できていますか？皆さんの地域でもあいさつ運動ということも達に挨拶をする活動があると思います。

私の中学、地域でもあいさつランドという名称で、月に一回校門に立ち挨拶を登校する子どもたちにし、その後、少し歩いて、最寄り駅で高校生や地域の人、学校の先生方と駅から降りてくる人たちに挨拶をいたします。

学校から駅に向かう途中では、学生だけでなく、一般の人にも「おはようございます」と必ず声を掛けます。もちろん私たちは「あいさつランド」というのほりをもち、「AKEHANA J.H.S」という名前の入ったジャンパーを着ているので、ある意味怪しいですが素性が分かる格好ですので、一般の人

挨拶をしやすいと思います。

朝のあいさつのみならず、挨拶は日常の生活やビジネスシーンなどでもとても重要です。ちよっと大げさですが、意思疎通の入り口、コミュニケーションのスタートが挨拶です。すべてがまず「はじめまして」とか「こんにちは」の挨拶からはじまります。よく、何かしらの問題が起きるときに「意思の疎通ができてませんでした」とか「コミュニケーションの不足から」という言葉を耳にすることがあります。そのコミュニケーションのはじめの一步、スタートが「あいさつ」ではないでしょうか？

自分の意思を伝えるとき、あいさつなしでは、なにも先に進むことができないように思えます。

私たちが生活する上で、子どもたちにとっても、重要な「あいさつ」、その練習が朝の「おはよう」という挨拶ではないでしょうか？子どもたち同士の挨拶や、親との挨拶も大切ですが、違う世代の人との挨拶も大切だと思います。普段、子どもたちにとって世代の

違う人とのあいさつは先生、親が主流だと思います。それ以外で世代の違う人たちとなるとほとんどないと思います。また、昨今では物騒なので、知らない人とは言葉を交わさないということもあり、なかなか難しいと思います。

でもこれから生きてく上で、世代の違う人と話す機会は多分にあるはず。その時にコミュニケーション不足にならないために、朝の挨拶はとっても重要だと思います。安全である世代の違う人との朝の挨拶。子どもたちの為に、今月も校門で「おはよう」と声をかけたいと思います。

あいさつはコミュニケーションの入り口ですから。



教育の窓

『まほうの』
『よいことみつけ』

山県市立高富小学校

教諭 大澤哲

私は今まで「よいことみつけ」という活動を知っていましたし、形だけでもやってきました。しかし、形だけになってしまいました。書く時間がないのか、どうやって書かせればよいのかなど、いろいろ理由がありました。自分本気になりきっていなかったこと、自分なりの方法がはつきりしていなかった

たということが本当の理由だったと、今では思います。

三年前に高富小学校に赴任した時に、また、「よいことみつけ」の活動に出会いました。とにかく毎日書くことが大切だと思い、毎日紙を配り、仲間の良さを書かせるようにしました。当時四年生

の担任をしていましたが、子どもたちは毎日書くことで、仲間に「よいことみつけ」を書くことが大好きになっていきました。

当然といえば当然なのですが、具体的に何がよいのか書いてあるとうれしいとか、事実が詳しく書いてあるとうれしいという意見が出て、自分たちで書きぶりを変えていくことができました。私は、その書かれた「よいことみつけ」から、素敵な事実と素敵な書きぶりのものを紹介することだけを続けていきました。

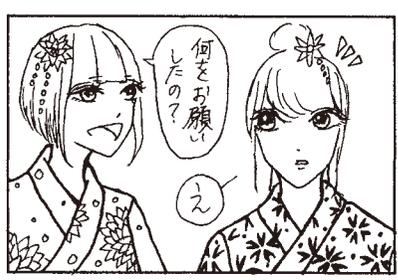
基本的には、毎日一人について書こうというで行っていました。が、行事の時や素敵な姿があった場合などには、「今日は、くが あったから、今から『よいことみつけ』を書く時間にしようよ。今日は何人でも書いていいよ。」と伝えられると、大喜びでたくさんの仲間

に「よいことみつけ」を書く姿になっていきました。そのうちに、普段でも複数人に書く子や、カードに色を塗って伝える子なども出てきました。

学期の最後に束になった「よいことみつけ」を大切に持ち帰る姿がとても印象に残っています。枚数を数えたり、一番うれしかった内容を上の方にしたりして、どの子も満足した表情をしていました。この時の子どもたちの中から『まほうの』『よいことみつけ』という言葉まで生まれ、今では高富小学校の合言葉になっています。

この経験から、この取り組みのすばらしさを感じました。大切なことは、続けることなのではない

初もうで



逆さ言葉

かつらがらっか

(鬢が落下)

出題・沖田 竜之介 (大垣市)

かと感じています。これからも『まほうの』よいことみつけ』がい
るようなところで広がっていくと
素敵だと思っています。



子どもが主体的に学ぶ

高山市立松倉中学校 教頭 牛丸千枝

他国の教育を見たいと思っ
いた折、隣国の教育を研修する機
会に遭遇しました。教師の指導、
生徒の姿、学校の運営、教員の働
き方を見てきたいという思いで、
韓国の私立職業高校、公立高校、
公立中学校、地方教育庁を訪問
しました。韓国は高校入試廃止
となつて久しく、大統領が変わっ
て教育改革が進められました。教

育課題は「生徒の主体的な学習
姿勢の育成」です。詰め込み式
の教育・学習意欲の低下・生徒
の幸福度の低さを打破するため
の施策がうたれた後の教育現場
の参観となりました。

○生徒中心の学び…生徒が直接体
験、考え・創造・自ら発表する
授業を仕組んでいる。教師は、
生徒に教えるスタンスから生
徒の助言者へと変わってきて
いる。

○校則…校則は自由なものとなり
つつあるが、制服、授業中の携
帯電話の使用などは点数制で
管理され、違反は減点となり、
ある点に達すると、ポランティ
アや反省文などの罰則が与え
られる。

○設備・環境…Qボードが廊下に
設置されており、生徒が質問
し、生徒が答えるようになって
いる。教室の後ろには椅子のな
い背の高い机が二台置かれ、眠
くなったら用具一式を持ち自ら
後ろへ行き学習する。廊下には
仕切られた個人学習スペースが
あって、授業中でもクールダウ

ンが必要な生徒は、自らそこに
行き一人学習する。すべての教
室にエアコン、プロジェクター、
パソコンが設置されている。

○職員勤務…基本は日本と同じ
だが、超過勤務一時間に一万
ウォンが手当として付く。これ
は国が決めている。週二回程度
の残業、土日は月二回程度出勤
が平均的で、受験前の高三担任
は若干多くなる。

○地方教育庁…一階に図書館、カ
フェ、ギャラリーが併設されて
いる。庁舎に来た人が、カフェ
でコーヒーを注文し、図書館で
本を借り、ギャラリーで絵を鑑
賞する。若手美術家にチャンス
を与えると同時に、住民には読
書を推進する憩いの環境を与え
ている。

訪韓に際し、日韓の政治的な関
係を考えると融和な交流ができ
るのか不安でした。でも、行く先々
で温かいもてなしを受けました。
印象に残ったのは、やはり教育改
革後の生徒の姿でした。私の関
わった生徒は、オーストラリアに
就職希望だというのに、日本語が

堪能で、意識の高さは本物だと思
いました。

訪問先の子どもたちはのびのび
と積極的に授業し、教師とも良い
関係でした。日本も新学習指導要
領で子ども「主体的な学び」に
取り組んでいます。歩みの違いは
あっても、同じ目標に向かって進
む隣国の子どもや教師の姿を見
て、今取り組んでいることに確信
をもちました。

また、新学習指導要領にある「持
続可能な社会の創り手・グローバル
な人材」には、主体性は外せない
要素と思います。そのために子
どもたちの興味を引き出す学習・
五感を使うような生きた体験の重
要性を感じています。



約束 なわとびを毎日100回飛ぶ

羽島市立竹鼻小学校PTA 大橋 陵賢



わが家の約束を考えるにあたり、長男と久しぶりに一
緒にお風呂に入ることに。聞いてみると、一緒にお風呂
に入るのは今年初めてとの事で、随分と長男と触れ合っ
てないことに気がつき、一緒に出来ることを二人で話し
合い、長男が体力つくりのために「なわとびを毎日一〇
〇回」に決定。

いざ一緒になわとびを飛んでみると、二
重飛び、ハヤブサ飛びと、長男は難易度の
高い技で一〇〇回のつもりだったらしく、
私は一回も飛ばずに断念。そこに長女と次
男も参戦。確実に子ども達の方がなわとび
上手でした。

なわとびは一本しかなかったので「お父
さん見て見てー」と順番になわとびをす
る。自分も童心にもどり子ども達の前で下
手ななわとびをする。秋風の中で爽やかな時が過ぎてい
きました。次第に家族の触れ
合ひになりました。

どんなことでも親子で企
画・実行を実践できるわが家
の約束は、家族を繋ぐ良い
ツールだと実感致しました。



我が家には、高校二年生と中学一年生の息子がいま
す。親としては、彼らが自分らしく今の生活を充実させ
るとともに、よりよく自己実現していけることを願って
います。そのため次のことを大切にしています。

①子ども側「いろいろな選択の場面があるが、納得のい
くまで考え自己決定すること。自分で決めたことは、
最後までしっかりと取り組むこと。」

②親側「子どもたちがよりよく選択・決定できるよう、
適切な情報を提供すること。その上で子どもが決めた
ことは尊重し、バックアップしていくこ
と。」

実際には、何部に入るのかから始まり、塾
に行くのか、どの高校に行くのか、携帯はい
つから持つのか、理系か文系か、どんな職業
に就きたいのか、そのための大学は、等々、
様々です。ここで重要なのが親子のコミュニ
ケーション。子どもたちが独り立ちする時
で、続けていけたら
と願っています。



大野町立大野中学校PTA副会長 白木 克郎

子どもが自己選択・決定できることを願って

太根と厚揚げの煮物



岐阜県学校栄養士会

岐阜県でとれる食材を、丁寧に取ったかつおだしでじっくり煮て味をしみこませることで、おいしい岐阜の味が楽しめる料理です。

県内には、郡上市と岐阜市周辺の2つの大根の生産地があり、収穫される時期が違うため、1年中新鮮な岐阜県産の大根を食べることができます。また、各務原市で栽培されるにんじんは、全国でも珍しく、5～6月に収穫される春夏にんじんと、11～12月に収穫される冬にんじんの2期作です。小松菜は主に岐阜市や神戸町で栽培されており、1～3月に旬を迎える野菜です。岐阜県で取れる「フクユタカ」という品種の大豆からは、豆腐や油あげなども作られていて、生揚げもその一つです。

岐阜県の食材を使うことの良さを、食卓の話題にしてみたいはかがでしよう。ぜひ作ってみてください。



作り方

- 1 かつおだしを丁寧に取る。(下記参照)
- 2 大根は1cm幅のいちょう切りにして、下茹でする。(米のとぎ汁で茹でると苦みがぬけて甘みが出る)にんじんは5mm幅のいちょう切りにする。
- 3 生揚げは熱湯をかけて油抜きをして1cm幅に切る。
- 4 小松菜は茹でて冷水にさらし水気を絞り、1cm長さに切る。
- 5 ③の生揚げと、大根、にんじん、だしを入れて落としふたをし、大根とにんじんがやわらかくなるまで煮る。Aを加えさらに弱火で10分位煮、火を止めて味を含ませる。
- 6 器に盛り、④の小松菜を添える。

【だしの取り方】

- 1 鍋に水と昆布を入れて30分以上水につけておく。弱火で10分ほど熱し、かつお節を入れて1～2分したら火を止める。
- 2 ふきんかペーパータオルを敷いたザルでこす。



材料

(材料4人分)

- 大根…………… 1/5本 (200g)
- にんじん…………… 1/3本 (60g)
- 生揚げ…………… 120g
- 小松菜…………… 60g
- A 砂糖…………… 大さじ1
- 濃口しょうゆ…………… 大さじ1
- だし汁
- かつお節…………… 10g位
- 昆布…………… 10g位
- 水…………… 1リットル程度

●栄養価(1人あたり)

- エネルギー…………… 74kcal
- たんぱく質…………… 4.1g
- 脂質…………… 3.5g
- カルシウム…………… 115mg
- 鉄…………… 1.4mg
- 亜鉛…………… 0.4mg
- ビタミンA…………… 147μRAE
- ビタミンB1…………… 0.05mg
- ビタミンB2…………… 0.06mg
- ビタミンC…………… 13mg
- 食物繊維…………… 1.6g
- 塩分相当量…………… 0.7g



Q1 次のうち、春の七草に含まれないものはどれでしょう？

- ア 薺(なずな)
- イ 仏の座(ほとけのぎ)
- ウ 御形(ごぎょう)
- エ 撫子(なでしこ)



1月号の

親子ではてな



Q2 1月には睦月(むつき)以外にもたくさんの別名があります。次のうち、1月の別名として正しいものはどれでしょう？

- ア 黄冬(おうとう)
- イ 初花月(はつはなづき)
- ウ 太郎月(たろうづき)
- エ 開明(かいめい)



応募方法

応募者は、はがきで、1月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 1月号クイズの答え
- 郵便番号・住所・学校・学年・氏名・保護者名
- 「わが子のあゆみ」への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

11月号クイズ答え

Q1 (ア) Q2 (イ)

11月号のクイズ当選者

赤堀れいき(岐阜市) 服部 葵(関市)
松尾依奏良(岐阜市) 和田 智咲(郡上市)
木戸 綾乃(羽島市) 伊佐治綾那(美濃加茂市)
林 優奈(各務原市) 小木曾菜央(美濃加茂市)
沖田竜之介(大垣市) 加藤 咲弥(中津市)
勝 咲来歩(不破郡) 堀 華蓮(高山市)
五十川陽菜(揖斐郡) 尾崎 伸明(高山市)
鈴木 麻友(郡上市)

なぞなぞの答え

星座

古田織部正重然は、天文十三年（一五五四年）もしくはその前年に、美濃国の山口村（現在の本巣市山口）で、美濃国山口城主古田重安の弟重定の子として生まれました。後に、茶人として知られる千利休の七哲の一人となり、利休亡き後は天下の茶匠として名をはせました。馬術に優れていた織部は、天下統一をめざした織田信長に従い、その後、豊臣秀吉、徳川家康にも仕えた、乱世を生きた武将であり、文化人でもあった人物です。織部は茶の湯と共に作陶にもその独自性を発揮し、織部釉の美しい緑色などが特徴である斬新な織部焼きを誕生させました。表面に即興的な絵（その場で心に浮かぶままに描く絵）をつけた奇妙にゆがんだ茶碗に向付皿は、当時の日本人の価値観を変えたばかりだけではなく、今なお、見る人の心を驚かせています。

「へうげもの」という漫画でも有名になった古田織部の生誕の地で育つ本巣小学校の子どもたちは、古田織部を知り、織部焼きの伝統に触れて実感することができ、授業を行っています。

四年生は、織部焼きの製作をしています。校区に織部焼きの窯があり、地元の織部焼き愛好家グループ「土の華」のみなさんにご協力をいただいで授業をしています。土を練り、形を作ることによって一時間。数日間乾かしてから素焼き

にします。その後、丁寧に色付けを行って釉薬ゆうやくをかけて本焼きをして完成となります。

また、道の駅「織部の里もとす」にある織部展示館を見学し、古田織部の功績について知識を深めています。

ここで学んだことを基礎として、中学校に進学してからも美術の授業で、改めて織部焼きに挑戦します。

この他、茶道クラブでお茶の器に織部焼きを使ったり、二年生の生活科の学習で地域探検を通して古田織部を学んだりするなど、様々な場で地域の偉人について学んでいます。

これらの体験を通して、子どもたちは、古田織部のように常識にとらわれないユニークで独創的な発想で、未来を創造していく力を培っていきることができます。そして、郷土の偉人に誇りを感じ、ふるさとである本巣への愛着が一層深まることを期待しています。



▲織部焼き（児童作品）



▲織部展示館を見学する2年生



▲古田織部正重然（織部展示館）



▲素焼きした器に色や釉薬をつける4年生



▲作品を見合う様子（児童作品）



▲茶道クラブの様子



▲講師の指導の下、粘土から器をつくる4年生

「古田織部」に学ぶ



本校は本巢市の北端にあり、樹齢千五百余年の淡墨桜、特別天然記念物の根尾谷断層や菊花石で有名な根尾地域にある学校です。児童は三十二名の小規模校ですが、地域の皆様に支えられ、のびのびと活動しています。



春の根尾小校舎



浪漫ウォークで根尾川のつり橋を渡る



うすずみ公園への学級開き遠足

豊かな自然や文化など地域の宝を生かす「ふるさと学習」に力を入れています。四月は、淡墨桜のあるうすずみ公園への学級開き遠足。全校児童で「だるまさんが転んだ」をして楽しみました。三月は、「うすずみ浪漫ウォーク」での学級納め遠足。学校近くの樽見駅から高尾駅まで樽見鉄道で移動し、そこから一年の成長を確かめながら、うすずみ公園まで歩きます。

ふるさと学習



運動会に向けて夏の親子奉仕作業



親子プール掃除

親子で行うPORTA活動

プール掃除、グラウンド整備等の奉仕作業に親子で取り組みます。保護者も子どもたちも互いに声を掛け合いながらがんばる姿は、親子のふれあいを深めることにつながっています。また今年は、卒業生も参加し、体育館通路のペンキ塗りにも汗を流していました。



根尾運動会・体育祭

伝統の旧村歌を演奏する「鼓笛隊」が自慢です。鼓笛の音を聞くと元気が出ると、地域の皆様に大変人気です。演奏方法は、一年をかけて高学年児童から低学年児童へ伝えていきます。秋に行われる幼小中学校合同の「根尾運動会・体育祭」では、全校児童による鼓笛演奏と「よさこいソーラン」を披露し、絆を深めました。

三世代交流会

お世話になってる保護者や地域の方々を招待し、ふれあいと感謝の気持ちを伝える会にしようと思っています。この会の前半は、縦割りグループの「うすずみ班」を中心に手作りゲームのお店を開いて、幼児からお年寄りまで楽しんでいただきます。また後半は、岐阜大学・吹奏楽部の皆さんによる「オータムコンサート」を楽しみます。そして、終わりの会では、「あおぞら畑」で育ててきたサツマイモの和菓子を参加者全員にプレゼントします。



三世代交流会で「豆つかみゲーム」

岐阜大学吹奏楽部による「オータムコンサート」



ふれあいと感謝の交流会

剣道部



不動智

私たち剣道部は、男子は全国大会出場、女子は西濃大会出場を目指して頑張っています。稽古の最初は大阪府警察がやっている切り返しと基本稽古を、稽古が始まるのが1分遅れるごとに5分間のかかり稽古をしたりして、自ら厳しい稽古に身をおいています。

また、稽古中、くじけそうな時は、みんなで「ファイト」と声をかけ合い、全力で練習しています。男子7人、女子2人と少ない人数ですが、目標を達成できるよう、これからもがんばります。

女子バレーボール部



一球入魂

私たち女子バレーボール部は、2年生4人、1年生5人で活動しています。人数は少ないですが、「一球入魂」を目標に1回1回の練習を大切にしています。

8月に行われた西濃サマーカップでは、「ベスト4」という結果を残すことができました。今回の結果よりも上にいけるように、日々の練習を大切にしていきます。

男子バスケットボール部



西濃大会出場

僕たち男子バスケットボール部は、1年生8人で西濃大会出場を目指して日々頑張っています。

目標を達成するために大切にしていることは、「チームプレーの徹底」「基礎体力の向上」「コミュニケーションの充実」です。常にチームプレーを意識し、うまくいかないところがあったら仲間同士で話し合うようにしています。練習前には自主トレにはげみ、試合でいい結果を残せるように頑張っています。

軟式野球部



向上心

私たち軟式野球部は、「県大会優勝」を目指して、日々練習しています。

練習では、常に試合を想定し、高い意識と緊張感をもって全員が練習に取り組んでいます。試合では、ベンチも含め、全員が「勝つためには何をすべきか」を考えて行動し、常に声を切らさず一球一球に魂を込め全力プレーしています。また、誰からも応援されるチームになるために、あいさつ、礼儀、整理整頓を大切にしています。

今後も野球ができることに感謝し、目標を達成するためにチーム一丸となり頑張っていきます。

吹奏楽部



基礎を大切に、仲間と成長していく部活

私たち吹奏楽部は24人で活動しています。私たちが目指しているのは「楽しい部活」です。「楽しい」とは、自分の基礎技術を向上させ、全員で綺麗な音色を奏でることができたときに感じる達成感を味わうことだと考えています。そのために、先輩は後輩にアドバイスをし、後輩は進んで行動し、先輩を支え、全員で成長していけるように心がけています。

来年の夏のコンクールでは、全員で設定した目標にたどり着けるように頑張ります。

柔道部



1つ1つを大切に

私たち柔道部は、人数は少ないですが、「県大会出場」という目標を達成するため、日々練習しています。練習時間や練習方法は限られていますが、その中で、トレーニングを試行錯誤したり、体だけでなく心もきたえるために、挨拶などの礼儀にも気を付けたりしています。ただ、がむしゃらに練習するのではなく、1つ1つの練習の意味を理解し、その意味を大切にしながら練習することで、「県大会出場」に向けてがんばります。

女子ソフトテニス部



切磋琢磨する部活

私たち女子ソフトテニス部は、1年生9人、2年生5人の合計14人で活動しています。西濃大会出場を目標にペアの中で切磋琢磨しながら練習しています。

部活面では、声を出すこと、きびきびとした動き、一回一回の練習を大切にすること、アドバイスをし合い共に高め合うことを大切にしています。

また、生活面では、挨拶、礼儀をしっかりし、凡事徹底に励んでいます。

これからも、切磋琢磨し、自分たちで部活動をつくり上げ、結果を残していけるように頑張ります。

男子ソフトテニス部



上を目指して

僕たち男子ソフトテニス部は、2年生は4人、1年生は10人の合計14人で活動しています。団体戦では不破郡優勝、個人戦では、できるだけ多くのペアが西濃大会に出場することを目標に日々努力しています。試合では、大きな声を出すことを意識しています。雨が降ると外での練習ができなくなるため、練習時間が限られています。ですから、外での練習では、一球一球を大切に打つよう心がけています。また、試合形式で練習する時には、ペア同士で作戦を考えながら練習しています。

これからも、一回一回の練習を大切に、明日は今日より少しでも上達できるように、さらに上を目指して努力していきます。

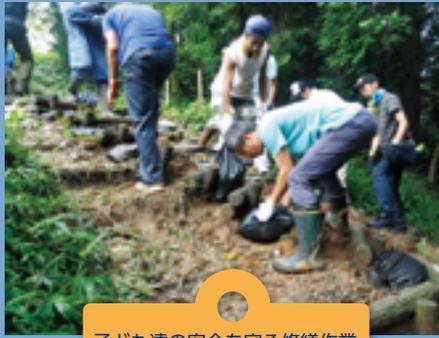
私たちのPTA



お父さんの読み聞かせは楽しいよ



命がつながって
ぼくがいるんだね



子ども達の安全を守る修繕作業

築40年を迎える校舎



今度は何を作ろうかな



楽しく見てもらえる
掲示作りをしています



子どもの喜ぶ顔を思い浮かべて！



力仕事は
お父さんならではの作業

おわりに

今回紹介した活動のほかにも、親子行事や運動会での親子競技、資源回収など、父親への参加を促す活動もあり、各活動への参加率は低くないと思っています。しかし、本校でも児童数、世帯数は年々減ってきており、保護者の負担感が大きくなっています。そのため、PTAの活動を見直し「減らす・やめる」決断も行っていきます。今後も「子どもたちのために」本場に必要活動に力を入れたPTA活動を目指していきます。

はじめに

私たち稲津小学校PTAは、児童数二百十六名、PTA会員数百八十一名（保護者百六十五名・教員十六名）の組織です。平成三十年年度のPTAスローガンは「いつてみよう・やってみよう」です。堅苦しいイメージではなく、「ちよつと行ってみようかな、やってみようかな」と気軽に参加でき、保護者同士が活動を通して理解し合い、つながりがもてる場を提供することや、活動を通して子ども達と一緒に親として成長していただけることを願っています。

（一）子どもの安全を守る愛校作業

一年に一度、校舎内外の美化を目的に愛校作業を行っています。昭和五十五年に現在の場所に学校ができましたが、老朽化が進み修繕が必要な箇所がいくつもあります。そのため、PTAでできる修繕にも取り組んでいます。昨年度は、学校が建つ丘を登る階段の修繕を行い、ケガをする子どもが激減しました。今年度は、運動場へ降りる法面にある丸太や木の階段で傷んだものを新しくする作業を行いました。子どもたちが運動場と校舎を安全に行き交うことができるようになりました。

（二）全世帯が行う『読み聞かせ』

朝の活動時間に保護者による読み聞かせを年間六回行っています。母親委員が中心となり、全世帯の保護者が分担して行います。中でも、毎年十月は「稲津小学校命の日」に合わせて『命』をテーマとした本の読み聞かせをしています。読み聞かせをする学年の子どもにも合わせた内容を選ぶことで、保護者にとっても

（三）家庭で行う『食育の日』

『命』を考える機会となっています。また、十一月の参観日に合わせた読み聞かせは、学年委員の父親による読み聞かせを行っています。父親ならではの視点による本選びがされ、毎年子どもたちに好評です。

夏休みの一日を『食育の日』とし、お弁当や家族の食事作りを、子どもが中心となり取り組みます。今年度は、手作り餃子やコロッケ、土鍋でご飯を炊いた子もいました。各家庭から出されるレポートを、母親委員で挿絵を入れたり切り抜き方を工夫したりするなどして、学級ごとの掲示物にまとめます。貼り替えられた新しい掲示板には、さっそく子どもたちが駆け寄り、子ども同士の交流が始まりました。参観日には、保護者の皆さんにも見ていただきます。各家庭で子どもとの共通の話題になり、食の大切さをさらに考える機会となっています。

がんばる子らの

汗と笑顔と眼差しと

関市立旭ヶ丘小学校



もくもく掃除

掃除中、一言も話をしないで、もくもく掃除をがんばっています。



30分休みには、全校児童325人全員が、運動場で元気に遊ぶことが本校の特色の一つです。

みんなが遊ぶ 30分休み



がんばり授業

ペアで意見を交流して、自分の考えを伝えたり仲間の考えを聞いたりすることで、学習を深めます。



電子黒板の活用

各教室に入っている電子黒板を使った授業は、子ども達にとっても分かりやすく、集中して学習できています。



本校が大切にしている活動の一つで、今年度は児童会がハイタッチあいさつに取り組んでいます。

ハイタッチ あいさつ



体育委員会が全校から希望者を募り体育館や運動場でいろいろな遊びを行っています。今日の遊びはキックボウリングです。

スポーツ旭